

令和6年度 宮崎県大学図書館協議会 講演会

オープンアクセスの実務

筑波大学 大石 柁洋

九州大学 平野 かおる

宮崎大学 寸田 五郎

宮崎大学 阿萬 祐典

講義内容について

本講義では、即時OA義務化の対象となっている学術雑誌論文に関する業務フローについて取り上げ、各フローで想定される作業について確認し、実践できる作業については、実際に行っていただきます。

適宜休憩をはさみながら行っていきます。

- i. 発行・出版状況の確認
- ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼 実習あり
- iii. 登録依頼および本文データの受領・
本文データの確認 実習あり
- iv. メタデータおよび本文データの
機関リポジトリへの登録 実習あり
- v. システム連携による登録データの送信 実習あり
- vi. アイテムの修正や削除

学術雑誌論文の登録業務のフロー

i. 発行・出版状況の確認

- Web of Science・SCOPUS・自学の研究者成果物DBなどの文献情報データベースから自学研究者執筆の論文を抽出し、リポジトリ未登録分の論文がないか確認する。

ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼

- 未登録分について、出版社のポリシーで著者版が登録できるものがあれば、著者最終稿の提供依頼メールを研究者に送付する

iii. 登録依頼および原稿ファイルの受領・本文データの確認

- 提供依頼メールを受けて登録に許諾した研究者から著者版原稿を受領する
- 原稿の版の再確認と確認依頼
- PDF編集（カバーページの作成・PDF化処理・OCR処理など）→おまけで紹介

iv. メタデータおよび原稿ファイルの機関リポジトリへの登録

- 書誌情報の入力
このとき、出版元のサイトでポリシーの再確認し、
権利情報として必ず載せなければいけない情報はないかを再確認する
- PDFの登録

v. システム連携による登録データの送信

- ハーベスト処理結果の確認

vi. アイテムの修正や削除

- ハーベスト処理結果を受けて修正や削除が必要であれば

- i. 発行・出版状況の確認**
- (ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼)**

i. 発行・出版状況の確認(Web of Scienceからの論文データの抽出)

【参考】

Web of Scienceから2024年12月出版の自学所属の著者執筆の論文を抽出する方法

【抽出手順】

- ① Web of Scienceの詳細検索にアクセス
<https://www.webofscience.com/wos/woscc/advanced-search>
- ② クエリプレビューに用語を追加よりAND検索で次の2つを追加
→ドキュメントタイプ→Article
著者所属 – 拡張→University of Tsukuba (ここは自身の大学英名を入力)
- ③ 日付範囲の追加から出版日カスタムを選択し、1か月分の範囲を指定
→2024-12-01 – 2024-12-31
- ④ 検索をクリック

i. 発行・出版状況の確認(Web of Scienceからの論文データの抽出)

【抽出手順】

- ⑤ エクスポートからExcelを選択
- ⑥ レコードオプションから、レコード：1-xxxを選択
- ⑦ レコードコンテンツ→編集を選択し、引用文献と用途列以外の項目すべてにチェックを入れ、選択を保存する
- ⑧ エクスポートをクリックし、ファイルがダウンロードできたら開いて論文情報を確認する

レコードを Excel にエクスポート

×

レコードオプション

ページ上のすべてのレコード

レコード: -

カスタムエクスポート選択 (Web of Science Core Collection)

×

- | | | | |
|--|--|----------------------------------|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 著者名、タイトル、情報源 | <input checked="" type="checkbox"/> 抄録、キーワード、住所 | <input type="checkbox"/> 引用文献と用途 | <input checked="" type="checkbox"/> 助成金情報その他 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 著者名 | <input checked="" type="checkbox"/> 抄録 | <input type="checkbox"/> 引用文献 | <input checked="" type="checkbox"/> 助成金提供情報 |
| <input checked="" type="checkbox"/> タイトル | <input checked="" type="checkbox"/> 著者住所 | <input type="checkbox"/> 引用文献数 | <input checked="" type="checkbox"/> 発行者情報 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 出版物名 | <input checked="" type="checkbox"/> 著者所属 - 拡張 | <input type="checkbox"/> 利用回数 | <input checked="" type="checkbox"/> オープンアクセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 会議情報/スポンサー | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメントタイプ | <input type="checkbox"/> ホットペーパー | <input checked="" type="checkbox"/> ページ数 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 被引用数 | <input checked="" type="checkbox"/> キーワード | <input type="checkbox"/> 高被引用文献 | <input checked="" type="checkbox"/> 出版物名略称 |
| <input checked="" type="checkbox"/> アクセプション番号 | <input checked="" type="checkbox"/> WoS の分野 | | <input checked="" type="checkbox"/> IDS 番号 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 著者 ID | <input checked="" type="checkbox"/> 研究分野 | | <input checked="" type="checkbox"/> 言語 |
| <input checked="" type="checkbox"/> ISSN | <input checked="" type="checkbox"/> WoS のエディション (印刷のみ) | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> PubMed ID | | | |

リセット

キャンセル

選択を保存

ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(ポリシーチェック Web of Science版)

【手順】

- ① フィルター設定と1行目を折り返して表示させる
- ② BO列「Open Access Designations」で、goldを除外※
- ③ AC列「Funding Orgs」で、空欄を除外※
※GoldOA論文や助成を受けていない論文は義務化対象外のため
- ④ Y列に「連絡著者」、Z列に「連絡著者のアドレス」が記載されているので、
自学所属の研究者かを確認し、自学所属の研究者でない場合は除外
- ⑤ DOIやタイトルなどを活用しリポジトリ未登録論文を抽出
- ⑥ 著作権ポリシーツールなどを使用して著者最終稿（AM）が登録できるか確認
- ⑦ 連絡著者に著者最終稿を依頼

著作権ポリシーツール

- ・ Open policy finder (IJSHERPA/RoMEO) <https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/>
- ・ 日本の学協会の著作権ポリシー確認ツール (SCPJ) https://app.lib.shimane-u.ac.jp/policy_checker/scpj.php
- ・ metadata_fetcher_by_DOI (国際農研林さん作) https://github.com/tzhaya/metadata_fetcher_by_DOI

i. 発行・出版状況の確認(SCOPUSからの論文データの抽出)

【参考】

SCOPUSから2024年出版の自学所属の著者執筆の論文を抽出する方法

【抽出手順】

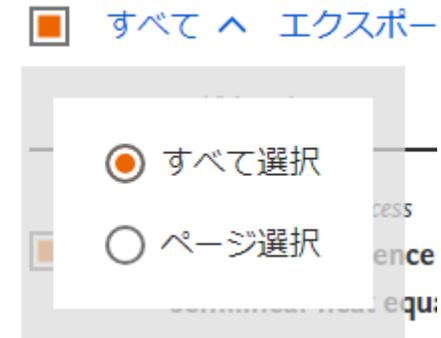
- ① SCOPUSの検索画面にアクセス
<https://www.scopus.com/>
- ② 検索項目で「著者所属機関名」を選択して機関名を入力
→「University of Miyazaki」（ここは自身の大学英名を入力）
- ③ 「対象期間を追加」をクリックして、開始年と終了年を選択
→開始年「2024」、終了年「2024」
- ④ 検索をクリック
- ⑤ 文献タイプの「article」を指定して絞り込み

i. 発行・出版状況の確認(SCOPUSからの論文データの抽出)

【抽出手順】

- ⑥ 文献を選択
※「すべて」をチェックすると、全ての文献を選択することができる
- ⑦ エクスポートからCSVを選択
- ⑧ エクスポートする情報を選択
※目録情報のうち、「連絡先住所」を選択すると、著者のメールアドレスを出力することができる
- ⑨ エクスポートをクリックし、ファイルがダウンロードできたら開いて論文情報を確認する

※Excelで開いて「連絡先住所」の項目を対象に「*email:」を空白に置換すると、メールアドレスのみに行うことができる（ただし、メールアドレスが複数含まれる場合は、最後のメールアドレスのみとなる）



ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(ポリシーチェック SCOPUS版)

【手順】

- ① フィルター設定と1行目を折り返して表示させる
- ② AR列「Open Access」で、All Open Access; Gold Open Accessを除外※
- ③ Y列「助成金情報」で、空欄を除外※
※GoldOA論文や助成を受けていない論文は義務化対象外のため
- ④ AB列「連絡先住所」に「連絡著者」と「連絡著者のアドレス」が記載されているので、自学所属の研究者かを確認し、自学所属の研究者でない場合は除外
- ⑤ DOIやタイトルなどを活用しリポジトリ未登録論文を抽出
- ⑥ 著作権ポリシーツールなどを使用して著者最終稿（AM）が登録できるか確認
- ⑦ 連絡著者に著者最終稿を依頼

著作権ポリシーツール

- ・ Open policy finder (IJSHERPA/RoMEO) <https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/>
- ・ 日本の学協会の著作権ポリシー確認ツール (SCPJ) https://app.lib.shimane-u.ac.jp/policy_checker/scpj.php
- ・ metadata_fetcher_by_DOI (国際農研林さん作) https://github.com/tzhaya/metadata_fetcher_by_DOI

i. 発行・出版状況の確認(その他文献情報データベース)

- Lens.org

<https://www.lens.org/lens/search/scholar/structured>

- CiNii

<https://cir.nii.ac.jp/articles>

→著者所属や連絡先情報をDBが持っていないので、著者同定には一工夫必要

例) DOIをキーにUnpaywall APIで論文情報を追加取得するなど

現在、国際農研林さん作の「metadata_fetcher_by_DOI」を林さんから引き継ぎ、OA加速化事業により筑波大学で改良版を開発中、今年度中にGitHubで公開予定

i. 発行・出版状況の確認(その他文献情報データベース)

- KAKEN DB

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/>

成果報告書データで更新されるのは年1回（1月中旬～当該年度中）

<https://support.nii.ac.jp/ja/kaken/about/datatype>

→翌年度始めに抽出作業をすることで、
即時OA対象の論文の登録漏れがないかのチェックには使えそう

- NII OAアシスト機能（開発中）

<https://rcos.nii.ac.jp/service/oaps/>

→現在先行利用機関による検証が一旦終了し、
本運用に向けて改修中とのことです

**ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼
ポリシーチェック編**

著作権法とポリシーチェック

- 従来の図書館活動と著作権との係わり
 - たとえば、著作権法第三十一条
 - 図書館等における複製
 - 利用者へ一部を1部、保存、図書館間
- 機関リポジトリ
 - セルフ・アーカイビング = 著者による権利行使
 - 機関リポジトリ（図書館）はプラットフォーム
 - 著作権の所在（通常、出版社）は問題ではない。
相手にするのは著作権譲渡契約の内容

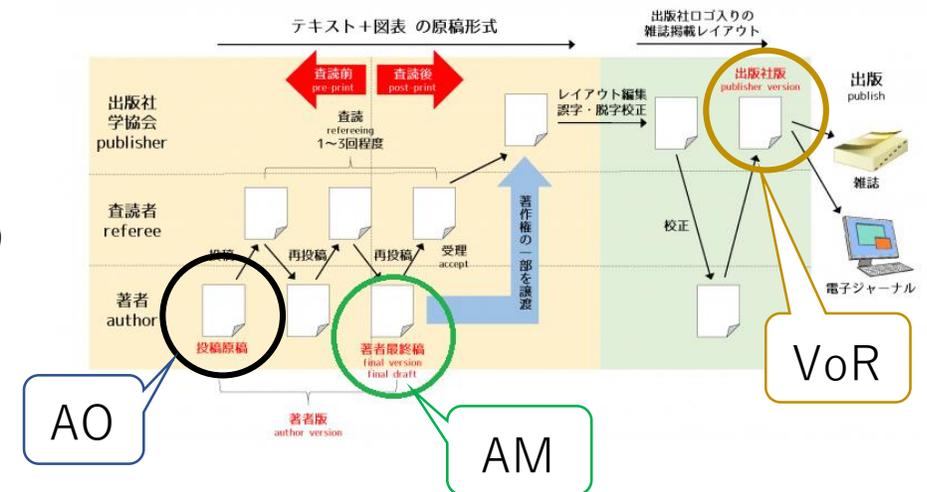
ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(ポリシーチェック)

- 自分 = 論文著者 で、
自分にはどんな権限があるのか、という立場・観点で探すこと
 - 出版社トップページの「Terms & Condition」や「Copyright」は、閲覧者・購読機関向けの情報
 - 個々のジャーナルの「Guide for Authors」とか「Submission」の類を見る。
Copyright Transfer Formがダウンロードできることが多い
 - 刊行誌全体に共通する「Author Rights」とか「Open Access Policy」「Self-archiving policy」とかを掲げている出版社も多い

【用語】

- AO (Author's Original いわゆる投稿原稿)
- AM (Accepted Manuscript いわゆる著者最終稿)
- VoR (Version of Record いわゆる出版社版)
- Embargo (公開抑止期間)

※出版社によって呼び方が若干異なることもあります



ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(ポリシーチェック)

- 機関リポジトリへの論文登録は著者が主体的意志で行うこと
 - 著者が図書館へ登録を申請する、申し込む（申請書、申込書）
 - × 図書館が著者の許諾を得て登録する（許諾書）
（著者は著作権者ではないため、機関リポジトリでの論文公開を「許諾」することはそもそもできない）
- 出版社にポリシーを尋ねる際も、
 - 著者が公開を希望していることが大前提
「図書館です。著者の許諾を得ました。公開したいです」ではだめ
 - 図書館は代理で問い合わせしているだけ
- 共著者の合意？
 - 必要かどうかはこれも著作権譲渡契約の内容次第。「共著者全員の合意がなければセルフアーカイブしてはならない」という場合は共著者全員の合意が必要になる

ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(ポリシーチェック)

著作権ポリシーツール

- Open policy finder (旧SHERPA/RoMEO)
<https://openpolicyfinder.jisc.ac.uk/>
- 日本の学協会の著作権ポリシー確認ツール (SCPJ)
https://app.lib.shimane-u.ac.jp/policy_checker/scpj.php
- metadata_fetcher_by_DOI (国際農研林さん作)
https://github.com/tzhaya/metadata_fetcher_by_DOI

ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(ポリシーチェック)

【実践】

次の論文についてどのような権利があるかを調べてみましょう。

① <https://doi.org/10.1111/j.1356-9597.2004.00753.x>

② <https://doi.org/10.1103/PhysRevLett.77.1958>

③ <https://doi.org/10.1299/mej.24-00262>

④ https://doi.org/10.2964/jsik_2016_001

⑤ <https://doi.org/10.1016/j.orl.2022.05.004>

**ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼
著者版原稿依頼編**

ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(著者版原稿依頼)

- 一括送信機能を活用しましょう

Outlookを使っている場合

→Wordの「差し込み機能」を使って送信する

Thunderbirdを使っている場合

→拡張機能で「Mail Merge」を追加し、送信する

ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(著者版原稿依頼)

Outlookの例

- ① 宛先の名前とメールアドレスが入ったExcelを用意
- ② Wordにて文章を作成(例→)
- ③ Wordの「差し込み文章」>「差し込み印刷の開始」を選択
- ④ 「電子メールメッセージ(E)」を選択
- ⑤ 「宛先の選択」>「既存のリストを使用」>対象のExcelを選択
- ⑥ 結果のプレビューで出力状況を確認
- ⑦ 「完了と差し込み」>「電子メールメッセージの送信」を選択
- ⑧ 宛先のメールアドレスの列に「mail_address」を指定し、件名を入力
- ⑨ メール形式は「HTML」として送信

件名:「つくばリポジトリ」への論文ご提供のお願い

本文:

<所属>

<連絡著者>様

筑波大学附属図書館リポジトリ担当です。

「つくばリポジトリ」では本学オープンアクセス方針(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/service/repository-oap>)に基づき、学術雑誌掲載論文を収集・公開させていただいております。

Web of Science に 2024 年〇月に収録されました下記論文について、査読済みの著者原稿 (author's accepted manuscript, 出版時のレイアウトになっていないもの) のリポジトリ登録が認められていることを確認いたしました。

つきましては、共著者のご承諾を得ていただいたうえ、査読済みの著者原稿をご提供いただけないでしょうか。
(※)

※共著の場合、共著者の承諾は先生よりお願いしております。メールで承諾を得ていただければ大丈夫です。
指定の書式はございませんが、必要な際は共著者許諾様式を下記よりダウンロードしてお使いいただけます。

<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/page/38>

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、可能な場合のみご対応いただければ幸いです。
ご不明な点がございましたら、本メールアドレスにお問合せください。

<論文>

著者名 <Authors>

論文名 <Article_Title>

掲載雑誌 <Source_Title>

DOI <DOI リンク>

●リポジトリでの公開に著作権上問題のない学術雑誌に掲載された論文であることを確認の上、お願いしております。

●ファイルの様式は、word、ppt、pdf 等でお願います。
(その他のファイル形式の場合はお問い合わせください)

ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(著者版原稿依頼)

Thunderbirdの例

- ① 宛先の名前とメールアドレスが入ったExcelを用意
- ② Thunderbirdにてメールを作成 (例→)
- ③ 宛先に{{mail address}}と入力
- ④ 件名に「査読済みの著者原稿ご提供のお願い ({{連絡著者}} 様)」などを入力
- ⑤ 「Mail Merge」を選択
- ⑥ 「Source」>「XLSX」>対象のExcelを選択
- ⑦ 「Deliver Mode」で「Send Later」または「Send As Draft」を選択
- ⑧ 「Send」を選択
(「Send Later」を選択した場合)
- ⑨ 送信トレイに出力されたメールを確認し、問題なければ、「未送信メッセージを送信」
※修正は不可のため、誤りがあれば削除する
(「Send As Draft」を選択した場合)
- ⑨ 下書きに出力されたメールを確認し、誤りがあれば適宜修正して送信する
※1件ずつ確認>編集>送信する必要がある

送信 | 暗号化 | スペル | 保存 | 添付 | Mail Merge

差出人(R) リポジトリ担当 <... masahiro@tulips.tsukuba.ac.jp > | Cc Bcc >>

宛先 {{mail address}}

件名(S) 【つくばリポジトリ】査読済みの著者原稿ご提供のお願い ({{連絡著者}} 様)

{{所属}}
{{連絡著者}} 様

筑波大学附属図書館リポジトリ担当です。

「つくばリポジトリ」では本学オープンアクセス方針(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/service/repository-oap>)に基づき、学術雑誌掲載論文を収集・公開させていただいております。

Web of Scienceに2024年〇月に収録されました下記論文について、査読済みの著者原稿 (author's accepted manuscript, 出版時のレイアウトになっていないもの) のリポジトリ登録が認められていることを確認いたしました。
つきましては、共著者のご承諾を得ていただいたうえ、査読済みの著者原稿をご提供いただけないでしょうか。 (※)

※共著の場合、共著者の承諾は先生よりお願いしております。メールで承諾を得ていただければ大丈夫です。
指定の書式はございませんが、必要な際は共著者承諾様式を下記よりダウンロードしてお使いいただけます。
<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/page/38>

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、可能な場合のみご対応いただければ幸いです。
ご不明な点がありましたら、本メールアドレスにお問合せください。

<論文>
著者名 : {{Authors}}
論文名 : {{Article Title}}
掲載雑誌 : {{Source Title}}
DOI : {{DOI リンク}}

●リポジトリでの公開に著作権上問題のない学術雑誌に掲載された論文であることを確認の上、お願いしております。
●ファイルの様式は、word、ppt、pdf等をお願いします。
(その他のファイル形式の場合はお問い合わせください)

ii. ポリシーチェックと著者版原稿依頼(著者版原稿依頼)

Gmailの例

メールへの差し込みは、対象となる Google Workspace プランを利用しているアカウントのみ以下の Google Workspace プランが対象

- Workspace Individual
- Business Standard
- Business Plus
- Enterprise Standard
- Enterprise Plus
- Education Standard
- Education Plus

Gmailヘルプ
メールへの差し込み機能を使用してカスタマイズしたメールを送信する
<https://support.google.com/mail/answer/12921167?hl=ja>

iii. 登録依頼および原稿ファイルの受領・本文データの確認

iii. 登録依頼および原稿ファイルの受領・本文データの確認(原稿の版の再確認)

【実践】

次の原稿の版は何でしょう？（AO？AM？VoR？）

① https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/7875/files/GC_9-7.pdf

② https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/2012089/files/PRL_77-10.pdf

③ https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/2013924/files/MEJ_11-6-24-00262.pdf

④ https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/37472/files/JSIK_26-1.pdf

⑤ https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/2004132/files/ORL_50-4-407.pdf

iii. 登録依頼および原稿ファイルの受領・本文データの確認(確認依頼)

【質問】 どういったときに確認依頼が必要でしょうか

**iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録
メタデータの確認編**

iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録 (メタデータの確認)

1ページ目上半分

ACS Chemical
Neuroscience

Open Access

This article is licensed under [CC-BY-NC-ND 4.0](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/)

pubs.acs.org/chemneuro

Research Article

Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between Cinnamoylquinic Acids in Neural Stem Cells from Adult Mice Brains

Hongyu Lin, Kazunori Sasaki, Farhana Ferdousi, and Hiroko Isoda*

Cite This: *ACS Chem. Neurosci.* 2024, 15, 3713–3723

Read Online

ACCESS | Metrics & More | Article Recommendations | Supporting Information

ABSTRACT: Caffeoylquinic acids (CQAs) and feruloylquinic acids (FQAs), as cinnamoylquinic acids, have neurogenesis promotion effects. We studied for the first time the neurogenesis-enhancing effect of 3,4,5-tri-feruloylquinic acid (TFQA) compared to 3,4,5-tri-caffeoylquinic acid (TCQA), which has a similar structure, and explored their different cellular and molecular mechanisms in neural stem cells (NSCs) of mice brains. After 2 weeks of incubation, we first assessed the number and size of NSCs in TCQA- and TFQA-treated NSCs and in TCQA- and TFQA-treated NSCs.

ACS Chemical Neuroscience on November 13, 2024 at 06:26:07 (UTC).
for options on how to legitimately share published articles.

iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録（メタデータの確認）

1ページ目上半分

雑誌の名前

ACS Chemical
Neuroscience

この論文の
CCライセンス

この論文の
「citation」情報
巻号やページ番号・
記事番号が確認できる

pubs.acs.org/chemneuro Open Access
This article is licensed under [CC-BY-NC-ND 4.0](#)

Research Article

この論文の題名

Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between Cinnamoylquinic Acids in Neural Stem Cells from Adult Mice Brains

この論文の著者
*はCorresponding Authorの印

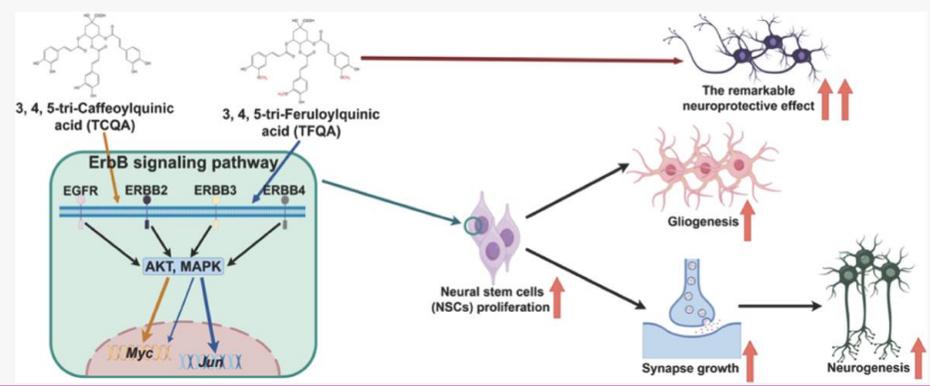
Hongyu Lin, Kazunori Sasaki, Farhana Ferdousi, and Hiroko Isoda*

Cite This: *ACS Chem. Neurosci.* 2024, 15, 3713–3723 **Read Online**

この論文の抄録

ACS Chemical Neuroscience on November 13, 2024 at 06:26:07 (UTC).
to legitimately share published articles.
for options on h

ACCESS | Metrics & More | Article Recommendations | Supporting Information



ABSTRACT: Caffeoylquinic acids (CQAs) and feruloylquinic acids (FQAs), as cinnamoylquinic acids, have neurogenesis promotion effects. We studied for the first time the neurogenesis-enhancing effect of 3,4,5-tri-feruloylquinic acid (TFQA) compared to 3,4,5-tri-caffeoylquinic acid (TCQA), which has a similar structure, and explored their different cellular and molecular mechanisms in neural stem cells (NSCs) of mice brains. After 2 weeks of incubation, we first assessed the number and size of NSCs in TCQA- and TFQA-treated NSCs. TFQA-treated NSCs showed a significant increase in the number and size of NSCs compared to TCQA-treated NSCs. Furthermore, TFQA-treated NSCs showed a significant increase in the expression of Myc and Jun, which are known to be involved in NSC proliferation and neurogenesis. These results suggest that TFQA has a neurogenesis-enhancing effect compared to TCQA, and this effect may be mediated by the activation of the ErbB signaling pathway.

iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録（メタデータの確認）

1ページ目下半分

Downloaded via UNIV OF TSU
See <https://pubs.acs.org/sharingguidelines>

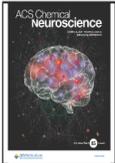
and glial cell differentiation gene expressions improved. In the microarray assay, the erythroblastic oncogene B (ErbB) signaling pathway, as the common signaling of TCQA and TFQA treatments, was focused on and discussed. In our study, TCQA and TFQA treatments in NSCs showed a significant performance on improving synapse growth and neurogenesis compared with no treatment of NSCs. The two treatments in NSCs also had a significant activation of the ErbB signaling pathway, protein kinase B (AKT), and mitogen-activated protein kinase (MAPK) kinases. In particular, the TCQA-expressed proliferation gene myelocytomatosis oncogene (*Myc*) had the greatest connections significantly. TFQA treatment remarkably regulated the differentiation gene jun proto-oncogene (*Jun*), which was the gene with greatest direct relations, while *Myc* was also induced in TFQA treatment. In the overall quantitative real-time polymerase chain reaction (PCR) assay, TFQA had more outstanding neural proliferation and differentiation capabilities than TCQA in NSCs. Our study suggests that TFQA has greater therapeutic potential in neurogenesis promotion and neurodegenerative diseases compared with TCQA.

KEYWORDS: *cinnamoylquinic acids, 3,4,5-tri-feruloylquinic acid, neural stem cells, neurospheres, microarray, neurogenesis*

■ INTRODUCTION

Cinnamoylquinic acids make up a group of naturally occurring compounds belonging to the family of phenolic acids. They are derivatives of quinic acid, which is a cyclic polyol compound that is found in various plants. Caffeoylquinic acids (CQAs), as specialized natural plant bioactive metabolites and a subset of cinnamoylquinic acids, are found in a wide range of foods, including coffee beans, potatoes, popular citrus fruits, chrysanthemum, kuding tea, and honeysuckle flower.¹ CQAs and their derivatives have anticancer, antioxidant, anti-inflammatory, antibacterial, antiparasitic, antiviral, and anti-diabetic effects.² The CQA derivative-rich sweet potato extract has a neuroprotective effect and improves spatial learning and memory *in vivo*.³ The mRNA expression of the glycolytic enzyme (PGK1) and intracellular adenosine triphosphate (ATP) levels are increased in CQA-treated SH-SY5Y cells, and CQA improves spatial learning and memory in senescence-accelerated mouse-prone (SAMP) 8 mice, as well as overexpression of PGK1 mRNA.⁴ Among CQAs, 3,4,5-tri-caffeoylquinic acid (TCQA) treatment increases the glial fibrillary acidic protein and neurons *in vivo* (Figure 1A). TCQA induces cell cycle arrest at G0/G1 and bone

Received: May 27, 2024
Revised: July 23, 2024
Accepted: August 14, 2024
Published: September 30, 2024



© 2024 The Authors. Published by American Chemical Society

ACS Publications

3713

<https://doi.org/10.1021/acscemneuro.4c00329>
ACS Chem. Neurosci. 2024, 15, 3713–3723

iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録（メタデータの確認）

1ページ目下半分

この論文の
キーワード

この論文の
コピーライト
「The Authors.」となっ
ているので著者が著作権
を持っていることになる

出版社のロゴ
このPDFが出版社版であ
る証拠でもある

Downloaded via UNIV OF TSU
https://pubs.acs.org/sharingguidelines

and glial cell differentiation gene expressions improved. In the microarray assay, the erythroblastic oncogene B (ErbB) signaling pathway, as the common signaling of TCQA and TFQA treatments, was focused on and discussed. In our study, TCQA and TFQA treatments in NSCs showed a significant performance on improving synapse growth and neurogenesis compared with no treatment of NSCs. The two treatments in NSCs also had a significant activation of the ErbB signaling pathway, protein kinase B (AKT), and mitogen-activated protein kinase (MAPK) kinases. In particular, the TCQA-expressed proliferation gene myelocytomatosis oncogene (*Myc*) had the greatest connections significantly. TFQA treatment remarkably regulated the differentiation gene jun proto-oncogene (*Jun*), which was the gene with greatest direct relations, while *Myc* was also induced in TFQA treatment. In the overall quantitative real-time polymerase chain reaction (PCR) assay, TFQA had more outstanding neural proliferation and differentiation capabilities than TCQA in NSCs. Our study suggests that TFQA has greater therapeutic potential in neurogenesis promotion and neurodegenerative diseases compared with TCQA.

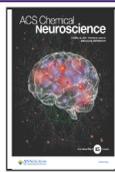
KEYWORDS: *cinnamoylquinic acids, 3,4,5-tri-feruloylquinic acid, neural stem cells, neurospheres, microarray, neurogenesis*

■ INTRODUCTION

Cinnamoylquinic acids make up a group of naturally occurring compounds belonging to the family of phenolic acids. They are derivatives of quinic acid, which is a cyclic polyol compound that is found in various plants. Caffeoylquinic acids (CQAs), as specialized natural plant bioactive metabolites and a subset of cinnamoylquinic acids, are found in a wide range of foods, including coffee beans, potatoes, popular citrus fruits, chrysanthemum, kuding tea, and honeysuckle flower.¹ CQAs and their derivatives have anticancer, antioxidant, anti-inflammatory, antibacterial, antiparasitic, antiviral, and anti-diabetic effects.² The CQA derivative-rich sweet potato extract has a neuroprotective effect and improves spatial learning and memory *in vivo*.³ The mRNA expression of the glycolytic enzyme (PGK1) and intracellular adenosine triphosphate

(ATP) levels are increased in CQA-treated SH-SY5Y cells, and CQA improves spatial learning and memory in senescence-accelerated mouse-prone (SAMP) 8 mice, as well as overexpression of PGK1 mRNA.⁴ Among CQAs, caffeoylquinic acid (TCQA) treatment increased glial fibrillary acidic protein and neurons *in vitro* (Figure 1A). TCQA induces cell cycle arrest in G0/G1 and bone

Received: May 27, 2024
Revised: July 23, 2024
Accepted: August 14, 2024
Published: September 30, 2024



ACS Publications

© 2024 The Authors. Published by American Chemical Society

3713

<https://doi.org/10.1021/acscemneuro.4c00329>
ACS Chem. Neurosci. 2024, 15, 3713–3723

掲載までの経緯
2024.5.27に受理され、
2024.7.23に改訂され、
その改訂が2024. 8. 14
に受理され、
2024.9.30に出版した

この論文を表す
記号「DOI」

iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録（メタデータの確認）

9ページ目右下半分と
10ページ目左上半分

quantitative real-time PCR. Quantitative real-time PCR Software 1.3.1 (Applied Biosystems, CA) and *Gapdh* (Mm99999915_g1) (Applied Biosystems, CA) were used as the endogenous control. All reactions were run in triplicate.

Statistical Analysis. The results were obtained as the mean \pm standard deviation (SD). Statistical analysis was performed using GraphPad Prism 6 (GraphPad Software) and Student's *t* test for comparing two value sets. *P*-value < 0.05 was considered statistically significant.

■ ASSOCIATED CONTENT

Supporting Information

The Supporting Information is available free of charge at <https://pubs.acs.org/doi/10.1021/acschemneuro.4c00329>.

The effect of TCQA and TFQA treatments on number of NSCs (Figure S1); GO analysis of TCQA and TFQA treatments in NSCs (Figure S2); summary of the upregulated hub genes of the ErbB signaling pathway by TCQA treatment (Table S1); summary of the downregulated hub genes of the ErbB signaling pathway by TCQA treatment (Table S2); summary of the upregulated hub genes of the ErbB signaling pathway by TFQA treatment (Table S3); and summary of the downregulated hub genes of the ErbB signaling pathway by TFQA treatment (Table S4) (PDF)

■ AUTHOR INFORMATION

Corresponding Author

Hiroko Isoda – Tsukuba Life Science Innovation Program (T-LSI), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8577, Japan; Alliance for Research on the Mediterranean and North Africa (ARENA), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8575, Japan; Open Innovation Laboratory for Food and Medicinal Resource Engineering (FoodMed-OIL), National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Tsukuba 305-8577, Japan; Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan; orcid.org/0000-0002-1399-9541; Phone: +81 29 853 5775; Email: isoda.hiroko.ga@u.tsukuba.ac.jp; Fax: +81 29 853 5776

Authors

Hongyu Lin – Tsukuba Life Science Innovation Program (T-LSI), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8577, Japan

Kazunori Sasaki – Alliance for Research on the Mediterranean and North Africa (ARENA), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8575, Japan; Open Innovation Laboratory for Food and Medicinal Resource Engineering (FoodMed-OIL), National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Tsukuba 305-8577, Japan

Farhana Ferdousi – Tsukuba Life Science Innovation Program (T-LSI), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8577, Japan; Alliance for Research on the Mediterranean and North Africa

21

<https://doi.org/10.1021/acschemneuro.4c00329>
ACS Chem. Neurosci. 2024, 15, 3713–3723

ACS Chemical Neuroscience

pubs.

(ARENA), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8575, Japan; Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan

Complete contact information is available at:

<https://pubs.acs.org/10.1021/acschemneuro.4c00329>

Author Contributions

H.L.: conceptualization, investigation, methodology, software, visualization, writing—original draft, writing—review and editing, data curation, and formal analysis. K.S.: conceptualization, investigation, methodology, software, writing—review and editing, and validation. F.F.: conceptualization, software, writing—review and editing, and validation. H.L.: conceptualization, methodology, funding acquisition, project administration, resources, supervision, and writing—review and editing.

Notes

The authors declare no competing financial interest.

■ ACKNOWLEDGMENTS

TCQA and TFQA were provided by Dr. Tominaga Kenichi and Masataka Hatanaka (AIST). This work was supported by the Japan Science and Technology Agency (JST grant number JPMJPF2017). The funders had no role in the design of the study; in the collection, analyses, or interpretation of data; in the writing of the manuscript; or in the decision to publish the results.

■ REFERENCES

- (1) Liang, N.; Kitts, D. Role of Chlorogenic Acids in Controlling Oxidative and Inflammatory Stress Conditions. *Nutrients* **2016**, *8* (1), 16.
- (2) Liu, W.; Li, J.; Zhang, X.; Zu, Y.; Yang, Y.; Liu, W.; Xu, Z.; Gao, H.; Sun, X.; Jiang, X.; Zhao, Q. Current Advances in Naturally Occurring Caffeoylquinic Acids: Structure, Bioactivity, and Synthesis. *J. Agric. Food Chem.* **2020**, *68* (39), 10489–10516.
- (3) Sasaki, K.; Han, J.; Shimozono, H.; Villareal, M. O.; Isoda, H. Caffeoylquinic Acid-Rich Purple Sweet Potato Extract, with or without Anthocyanin, Imparts Neuroprotection and Contributes to the Improvement of Spatial Learning and Memory of Samp8Mouse. *J. Agric. Food Chem.* **2013**, *61* (21), 5037–5045.
- (4) Han, J.; Miyamae, Y.; Shigemori, H.; Isoda, H. Neuroprotective Effect of 3,5-Di-O-Caffeoylquinic Acid on SH-SY5Y Cells and Senescence-Accelerated-Prone Mice 8 through the up-Regulation of Phosphoglycerate Kinase-1. *Neuroscience* **2010**, *169* (3), 1039–1045.
- (5) Sasaki, K.; Davies, J.; Doldán, N. G.; Arao, S.; Ferdousi, F.; Szele, F. G.; Isoda, H. 3,4,5-Tricafeoylquinic Acid Induces Adult Neurogenesis and Improves Deficit of Learning and Memory in Aging Model Senescence-Accelerated Prone 8 Mice. *Aging* **2019**, *11* (2), 401–422.
- (6) Clifford, M. N. Chlorogenic Acids and Other Cinnamates—

iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録（メタデータの確認）

9ページ目右半分と
10ページ目左半分

照会等の窓口となる著者の詳細
Corresponding Authorの情報

著者を表す記号「ORCID」
この例は責任著者の磯田博子先生のもの

著者の詳細
この例では、Corresponding Author以外の3人の著者の所属が記載されている

quantitative real-time PCR. Quantitative real-time PCR Software 1.3.1 (Applied Biosystems, CA) and *Gapdh* (Mm99999915_g1) (Applied Biosystems, CA) were used as the endogenous control. All reactions were run in triplicate.

Statistical Analysis. The results were obtained as the mean \pm standard deviation (SD). Statistical analysis was performed using GraphPad Prism 6 (GraphPad Software) and Student's *t* test for comparing two value sets. *P*-value < 0.05 was considered statistically significant.

■ ASSOCIATED CONTENT

Supporting Information

The Supporting Information is available free of charge at <https://pubs.acs.org/doi/10.1021/acschemneuro.4c00329>.

The effect of TCQA and TFQA treatments on number of NSCs (Figure S1); GO analysis of TCQA and TFQA treatments in NSCs (Figure S2); summary of the upregulated hub genes of the ErbB signaling pathway by TCQA treatment (Table S1); summary of the downregulated hub genes of the ErbB signaling pathway by TCQA treatment (Table S2); summary of the upregulated hub genes of the ErbB signaling pathway by TFQA treatment (Table S3); and summary of the downregulated hub genes of the ErbB signaling pathway by TFQA treatment (Table S4) (PDF)

■ AUTHOR INFORMATION

Corresponding Author

Hiroko Isoda – Tsukuba Life Science Innovation Program (T-LSI), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8577, Japan; Alliance for Research on the Mediterranean and North Africa (ARENA), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8575, Japan; Open Innovation Laboratory for Food and Medicinal Resource Engineering (FoodMed-OIL), National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Tsukuba 305-8577, Japan; Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan. orcid.org/0000-0002-1399-9541
Phone: +81 29 853 5775; Email: isoda.hiroko.ga@u.tsukuba.ac.jp; Fax: +81 29 853 5776

Authors

Hongyu Lin – Tsukuba Life Science Innovation Program (T-LSI), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8577, Japan
Kazunori Sasaki – Alliance for Research on the Mediterranean and North Africa (ARENA), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8575, Japan; Open Innovation Laboratory for Food and Medicinal Resource Engineering (FoodMed-OIL), National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Tsukuba 305-8577, Japan
Farhana Ferdousi – Tsukuba Life Science Innovation Program (T-LSI), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8577, Japan; Alliance for Research on the Mediterranean and North Africa

21 <https://doi.org/10.1021/acschemneuro.4c00329>
ACS Chem. Neurosci. 2024, 15, 3713–3723

ACS Chemical Neuroscience pubs.

(ARENA), University of Tsukuba, Tsukuba 305-8575, Japan; Faculty of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan

Complete contact information is available at: <https://pubs.acs.org/10.1021/acschemneuro.4c00329>

Author Contributions

H.L.: conceptualization, investigation, methodology, software, visualization, writing—original draft, writing—review and editing, data curation, and formal analysis. K.S.: conceptualization, investigation, methodology, software, writing—review and editing, and validation. F.F.: conceptualization, software, writing—review and editing, and validation. H.L.: conceptualization, methodology, funding acquisition, project administration, resources, supervision, and writing—review and editing.

Notes

The authors declare no competing financial interests.

■ ACKNOWLEDGMENTS

TCQA and TFQA were provided by Dr. Tominaga Kenichi and Masataka Hatanaka (AIST). This work was supported by the Japan Science and Technology Agency (JST grant number JPMJPF2017). The funders had no role in the design of the study; in the collection, analyses, or interpretation of data; in the writing of the manuscript; or in the decision to publish the results.

■ REFERENCES

(1) Liang, N.; Kitts, D. Role of Chlorogenic Acids in Controlling Oxidative and Inflammatory Stress Conditions. *Nutrients* **2016**, *8* (1), 16.

(2) Liu, W.; Li, J.; Zhang, X.; Zu, Y.; Yang, Y.; Liu, W.; Xu, Z.; Gao, H.; Sun, X.; Jiang, X.; Zhao, Q. Current Advances in Naturally Occurring Caffeoylquinic Acids: Structure, Bioactivity, and Synthesis. *J. Agric. Food Chem.* **2020**, *68* (39), 10489–10516.

(3) Sasaki, K.; Han, J.; Shimozono, H.; Villareal, M. O.; Isoda, H. Caffeoylquinic Acid-Rich Purple Sweet Potato Extract, with or without Anthocyanin, Imparts Neuroprotection and Contributes to the Improvement of Spatial Learning and Memory of Samp8Mouse. *J. Agric. Food Chem.* **2013**, *61* (21), 5037–5045.

(4) Han, J.; Miyamae, Y.; Shigemori, H.; Isoda, H. Neuroprotective Effect of 3,5-Di-O-Caffeoylquinic Acid on SH-SY5Y Cells and Senescence-Accelerated-Prone Mice 8 through the up-Regulation of Phosphoglycerate Kinase-1. *Neuroscience* **2010**, *169* (3), 1039–1045.

(5) Sasaki, K.; Davies, J.; Doldán, N. G.; Arao, S.; Ferdousi, F.; Szele, F. G.; Isoda, H. 3,4,5-Tricafeoylquinic Acid Induces Adult Neurogenesis and Improves Deficit of Learning and Memory in Aging Model Senescence-Accelerated Prone 8 Mice. *Aging* **2019**, *11* (2), 401–422.

(6) Clifford, M. N. Chlorogenic Acids and Other Cinnamates—

この論文の謝辞
助成情報などが載っている
Fundingとして別項目になっていることもある

この論文では科学技術振興
機構(JST)の助成を受けて
いることがわかる
<https://projectdb.jst.go.jp/grant/JST-PROJECT-203544454/>

Quiescence and Activation by Coordinating the Cell Cycle and Mitochondrial Remodeling. *Signal Transduction Targeted Ther.* **2021**, *6* (1), No. 306.

(30) Hatton, K. S.; Mahon, K.; Chin, L.; Chiu, F.-C.; Lee, H.-W.; Peng, D.; Morgenbesser, S. D.; Horner, J.; Depinho, R. A. Expression and Activity of L-Myc in Normal Mouse Development. *Mol. Cell. Biol.* **1996**, *16* (4), 1794–1804.

(31) Sjöström, S. K.; Finn, G.; Hahn, W. C.; Rowitch, D. H.; Kenney, A. M. The Cdk1 Complex Plays a Prime Role in Regulating N-Myc Phosphorylation and Turnover in Neural Precursors. *Dev. Cell* **2005**, *9* (3), 327–338.

(32) Raivich, G.; Bohatschek, M.; Da Costa, C.; Iwata, O.; Gallano, M.; Hristova, M.; Nateri, A. S.; Makwana, M.; Riera-Sans, L.; Wöller, D. P.; Lipp, H.-P.; Aguzzi, A.; Wagner, E. F.; Behrens, A. The AP-1 Transcription Factor C-Jun Is Required for Efficient Axonal Regeneration. *Neuron* **2004**, *43* (1), 57–67.

(33) Zhu, X.; Raina, A. K.; Rottkamp, C. A.; Aliev, G.; Perry, G.; Boux, H.; Smith, M. A. Activation and Redistribution of C-Jun N-terminal Kinase/Stress Activated Protein Kinase in Degrading Neurons in Alzheimer's Disease. *J. Neurochem.* **2001**, *76* (2), 435–441.

(34) Zhou, G.-P.; Wu, C.-X.; Feng, Y.-H.; Yang, L.; Zhan, Z.-L.; Xu, X.-H.; Hu, X.-Y.; Zhu, Z.-H. Electroacupuncture Exerts Neuroprotective Effects on Ischemia/Reperfusion Injury in JNK Knockout Mice: The Underlying Mechanism. *Neural Regen. Res.* **2018**, *13* (9), 1594.

(35) Lyu, Y.; Su, Z.; Ye, G.; He, X.; Liu, Y.; Yin, Q.; Xie, F.; Xu, L.; Chen, Y.; Long, D. Mir-210-5p Promotes the Differentiation of Human Induced Pluripotent Stem Cells into Dopaminergic Neural Precursors by Targeting SMAD4 and Sufu and Treats Parkinsonian Rats. *Exp. Gerontol.* **2023**, *179*, No. 112243.

(36) Akinyemi, A. R.; Li, D.; Zhang, J.; Liu, Q. HNRNPM Deficiency Leads to Cognitive Deficits via Disrupting Synaptic Plasticity. *Neurosci. Lett.* **2021**, *751*, No. 135824.

(37) Hatzipantelis, C. J.; Lu, Y.; Spark, D. L.; Langmead, C. J.; Stewart, G. D. B-Arrestin-2-Dependent Mechanism of GPR52 Signaling in Frontal Cortical Neurons. *ACS Chem. Neurosci.* **2020**, *11* (14), 2077–2084.

(38) Kelsch, W.; Lin, C.-W.; Lois, C. Sequential Development of Synapses in Dendritic Domains during Adult Neurogenesis. *Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.* **2008**, *105* (43), 16803–16808.

(39) Kabir, Md. T.; Uddin, Md. S.; Setu, J. R.; Ashraf, G. M.; Bin-Jumah, M. N.; Abdel-Daim, M. M. Exploring the Role of Psen Mutations in the Pathogenesis of Alzheimer's Disease. *Neurotoxic. Res.* **2020**, *38* (4), 833–849.

(40) Matrone, C.; Pettilo, F.; Nasso, R.; Ferretti, G. Fyn Tyrosine Kinase as Harmonizing Factor in Neuronal Functions and Dysfunctions. *Int. J. Mol. Sci.* **2020**, *21* (12), 4444.

(41) Buonanno, A.; Fischbach, G. D. Neuregulin and ErbB Receptor Signaling Pathways in the Nervous System. *Curr. Opin. Neurobiol.* **2001**, *11* (3), 287–296.

(42) Qin, L.; Qiao, C.; Sheen, V.; Wang, Y.; Lu, J. DNMT3L Promotes Neural Differentiation by Enhancing STAT1 and STAT3 Phosphorylation Independent of DNA Methylation. *Prog. Neurobiol.* **2021**, *201*, No. 102028.

(43) Park, D.; Xiang, A. P.; Mao, F. F.; Zhang, L.; Di, C.-G.; Liu, X.-M.; Shao, Y.; Ma, B.-F.; Lee, J.-H.; Ha, K.-S.; Walton, N.; Lahn, B. T. Nestin Is Required for the Proper Self-Renewal of Neural Stem Cells. *Stem Cells* **2010**, *28* (12), 2162–2171.

(44) Lagace, D. C.; Whitman, M. C.; Noonan, M. A.; Ables, J. L.; DeCarolis, N. A.; Arguello, A. A.; Donovan, M. H.; Fischer, S. J.; Farnbauch, L. A.; Beech, R. D.; DiLeone, R. J.; Greer, C. A.; Mandyam, C. D.; Eisch, A. J. Dynamic Contribution of Nestin-Expressing Stem Cells to Adult Neurogenesis. *J. Neurosci.* **2007**, *27* (46), 12623–12629.

(45) Gao, Z.; Ure, K.; Ables, J. L.; Lagace, D. C.; Nave, K.-A.; Goebbels, S.; Eisch, A. J.; Hsieh, J. NeuroD1 Is Essential for the Survival and Maturation of Adult-Born Neurons. *Nat. Neurosci.* **2009**, *12* (9), 1090–1092.

(46) Rivers, L. E.; Young, K. M.; Rizzi, M.; Jamen, F.; Psachoula, K.; Wade, A.; Kessar, N.; Richardson, W. D. PDGFRA/NG2 Glia Generate Myelinating Oligodendrocytes and Piriform Projection Neurons in Adult Mice. *Nat. Neurosci.* **2008**, *11* (12), 1392–1401.

(47) Zhao, Q.; Zhu, Y.; Ren, Y.; Yin, S.; Yu, L.; Huang, R.; Song, S.; Hu, X.; Zhu, R.; Cheng, L.; Xie, N. Neurogenesis Potential of Oligodendrocyte Precursor Cells from Oligospheres and Injured Spinal Cord. *Front. Cell. Neurosci.* **2022**, *16*, No. 1049562.

(48) Akay, L. A.; Effenberger, A. H.; Tsai, L.-H. Cell of All Trades: Oligodendrocyte Precursor Cells in Synaptic, Vascular, and Immune Function. *Genes Dev.* **2021**, *35* (3–4), 180–198.

(49) Hajinejad, M.; Ghaddarpouri, M.; Dabzadeh, M.; Forouzanfar, F.; Sahab-Negah, S. Natural Cinnamaldehyde and Its Derivatives Ameliorate Neuroinflammatory Pathways in Neurodegenerative Diseases. *Biomed. Res. Int.* **2020**, *2020*, 1–9.

(50) Tibashilwa, N.; Stephano, F.; Shadrack, D. M.; Munissi, J. J. E.; Nyandoro, S. S. Neuroprotective Potential of Cinnamoyl Derivatives against Parkinson's Disease Indicators in *Drosophila* Melanogaster and in Silico Models. *Neurotoxicology* **2023**, *94*, 147–157.

(51) Fan, Z.; Yang, Z.; Zhang, H.; Mi, N.; Wang, H.; Cai, F.; Zuo, X.; Zheng, Q.; Song, H. Synthesis, Crystal Structure, and Biological Activity of 4-Methyl-1,2,3-Thiadiazole-Containing 1,2,4-Triazole[3,4-b][1,3,4]Thiadiazoles. *J. Agric. Food Chem.* **2010**, *58* (5), 2630–2636.

(52) Wang, D.; Gao, F. Quinazoline Derivatives: Synthesis and Bioactivities. *Chem. Cent. J.* **2013**, *7* (1), 1–15.

(53) Xu, S.; Shang, M.-Y.; Liu, G.-X.; Xu, F.; Wang, X.; Shou, C.-C.; Cai, S.-Q. Chemical Constituents from the Rhizomes of *Smilax Glabra* and Their Antimicrobial Activity. *Molecules* **2013**, *18* (5), S265–S287.

(54) de Paiva, R.; da Silva, J.; Moreira, H.; Pinto, O.; Camargo, L.; Naves, P.; Camargo, A.; Ribeiro, L.; Ramos, L. Synthesis, Antimicrobial Activity and Structure-Activity Relationship of Some 5-Arylidene-Thiazolidine-2,4-Dione Derivatives. *J. Braz. Chem. Soc.* **2018**, *30*, 164–172.

(55) Chen, Y. J.; Ferdousi, F.; Bejaoui, M.; Sasaki, K.; Isoda, H. Microarray Meta-Analysis Reveals Comprehensive Effects of 3,4,5-Tricaffeoylquinic Acid in Cell Differentiation and Signaling. *Eur. J. Pharmacol.* **2023**, *960*, No. 176143.

(56) Jantas, D.; Chwoastek, J.; Malarz, J.; Stojakowska, A.; Lasoń, W. Neuroprotective Effects of Methyl Caffeate against Hydrogen Peroxide-Induced Cell Damage: Involvement of Caspase 3 and Cathepsin D Inhibition. *Biomolecules* **2020**, *10* (11), 1530.

(57) Gul, W.; Hamann, M. T. Indole Alkaloid Marine Natural Products: An Established Source of Cancer Drug Leads with Considerable Promise for the Control of Parasitic, Neurological and Other Diseases. *Life Sci.* **2005**, *78* (5), 442–453.

(58) Jain, A. K.; Sharma, S.; Vaidya, A.; Ravichandran, V.; Agrawal, R. K. 1,3,4-Thiadiazole and Its Derivatives: A Review on Recent Progress in Biological Activities. *Chem. Biol. Drug Des.* **2013**, *81* (5), 557–576.

(59) Nunnery, J. K.; Mevers, E.; Gerwick, W. H. Biologically Active Secondary Metabolites from Marine Cyanobacteria. *Curr. Opin. Biotechnol.* **2010**, *21* (6), 787–793.

iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録（メタデータの確認）

【実践】

次の論文の書誌データを確認してみましょう

① https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/7875/files/GC_9-7.pdf

② https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/2013924/files/MEJ_11-6-24-00262.pdf

③ https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/37472/files/JSIK_26-1.pdf

確認する書誌情報

- ・ タイトル
- ・ 責任著者
- ・ 雑誌名
- ・ 巻号ページ
- ・ 発行日
- ・ ISSN
- ・ DOI
- ・ 権利情報
- ・ 助成情報
- ・ 出版社名

iv. **メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録**
メタデータおよび本文データの登録編

iv. メタデータおよび本文データの機関リポジトリへの登録（メタデータの登録）

【実習】

JPCOARスキーマを確認してみましょう。

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/schema>

次のような場合どの項目にどのように登録すべきでしょうか？

- ①同一人物の著者名を複数言語で登録したい
- ②科研費の情報を登録したい
- ③エンバーゴ期間を設定したい
- ④出版社が付与しているDOIを表示したい
- ⑤本文データを登録したい

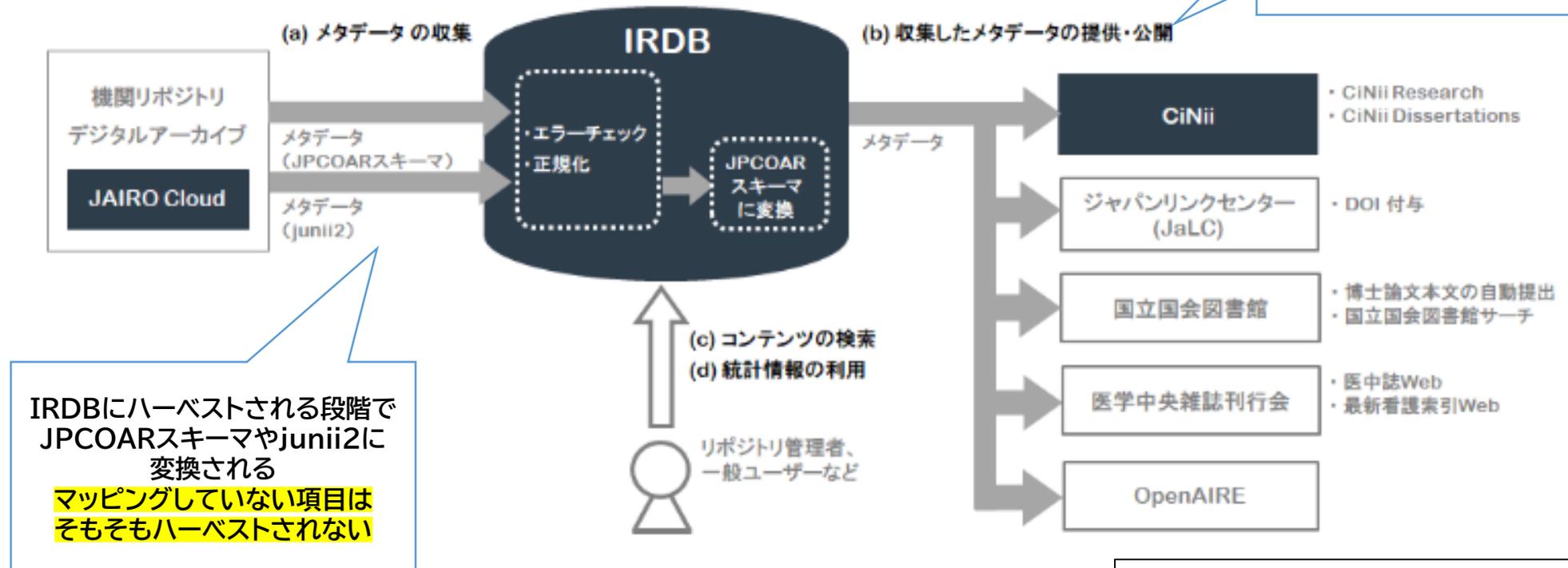
**v. システム連携による登録データの送信
OAI-PMHの確認編**

v. システム連携による登録データの送信（OAI-PMHの確認）

【誤解】

リポジトリで表示されている情報がそのまま流通する

【事実】



IRDBにハーベストされる段階で JPCOARスキーマやjunii2に変換される
マッピングしていない項目は
そもそもハーベストされない

学術機関リポジトリデータベース (IRDB) サポート
<https://support.irdb.nii.ac.jp/ja>

v. システム連携による登録データの送信（OAI-PMHの確認）

アイテム

コンテンツタイプ / 雑誌発表論文等 / 海外雑誌

Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between Cinnamoylquinic Acids in Neural Stem Cells from Adult Mice Brains

http://hdl.handle.net/2241/0002013581

名前 / ファイル	ライセンス	アクション
ACSCN_15-20-3713.pdf (5.0 MB)		ダウンロード Information

4 views
total

See details

Versions

Ver.1 2024-11-21 07:00:40.579344

Show All versions

エクスポート

OAI-PMH
 JPCOAR 2.0
 JPCOAR 1.0
 DublinCore
 Other Form
 JSON BIB

Item type	共通アイテムタイプ(1)
公開日	2024-11-20
タイトル	Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between Cinnamoylquinic Acids in Neural Stem Cells from Adult Mice Brains
言語	en
言語	eng
資源タイプ	journal article
資源タイプ識別子	http://purl.org/coar/resource_type/c_6501
著者	Lin Hongyu Sasaki Kazunori Ferdousi Farhana Isoda Hiroko
著者情報	表示名 数理学部系, 佐々木, 一彦, ササキ, カズノリ; SASAKI, Kazunori URL http://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000003867
著者情報	表示名 生命環境系, フェルドウシ, ファラハナ; フェルドウシ, ファラハナ; FERDOUSI, Farhana URL http://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000004478
著者情報	表示名 生命環境系, 磯田, 博子, イソダ, ヒロコ; ISODA, Hiroko URL http://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000001303
抄録	内容記述タイプ 内容記述 Abstract Caffeoylquinic acids (CQAs) and feruloylquinic acids (FQAs), as cinnamoylquinic acids, have neurogenesis promotion effects. We studied for the first time the neurogenesis-enhancing effect of 3,4,5-tri-feruloylquinic acid (TFQA) compared to 3,4,5-tri-caffeoylquinic acid (TCQA), which has a similar structure, and explored their different cellular and molecular mechanisms in neural stem cells (NSCs) of mice brains. After 2 weeks of incubation, we first assessed the number and size of NSCs in TCQA and TFQA treatments. In NSCs treated for TCQA and TFQA, the NSC proliferation gene expression as well as neuronal and glial cell differentiation gene expressions improved. In the microarray assay, the erythroblastic oncogene B (ErbB) signaling pathway, as the common signaling of TCQA and TFQA treatments, was focused on and discussed. In our study, TCQA and TFQA treatments in NSCs showed a significant performance on improving synapse growth and neurogenesis compared with no treatment of NSCs. The two treatments in NSCs also had a significant activation of the ErbB signaling pathway, protein kinase B (AKT), and mitogen-activated protein kinase (MAPK) kinases. In particular, the TCQA-expressed proliferation gene myelocytomatosis oncogene (Myc) had the greatest connections significantly. TFQA treatment remarkably regulated the differentiation gene jun proto-oncogene (Jun), which was the gene with greatest direct relations, while Myc was also induced in TFQA treatment. In the overall quantitative real-time polymerase chain reaction (PCR) assay, TFQA had more outstanding neural proliferation and differentiation capabilities than TCQA in NSCs. Our study suggests that TFQA has greater therapeutic potential in neurogenesis promotion and neurodegenerative diseases compared with TCQA.
言語	en

言語	en
キーワード	
言語	en
主題Scheme	Other
主題	cinnamoylquinic acids; 3,4,5-tri-feruloylquinicacid; neural stem cells; neurospheres; microarray; neurogenesis
書誌情報	en : ACS Chemical Neuroscience 巻 15, 号 20, p. 3713-3723, 発行日 2024-09-30
アクセス権	open access
アクセス権URI	http://purl.org/coar/access_right/c_abf2
ISSN	PISSN 1948-7193
収録物識別子タイプ	PISSN
収録物識別子	1948-7193
出版者	American Chemical Society
言語	en
出版タイプ	VoR
出版タイプResource	http://purl.org/coar/version/c_970fb48d4fd8a85
権利情報	言語 en 権利情報 © 2024 The Authors. Published by American Chemical Society. This publication is licensed under CC-BY-NC-ND 4.0 .
DOI	isIdenticalTo DOI https://doi.org/10.1021/acchemneuro.4c00329
PMID	識別子タイプ PMID 39348888 関連識別子
謝辞・助成情報	内容記述タイプ Other TCQA and TFQA were provided by Dr. Tominaga Kenichi and Masataka Hatanaka (AIST). This work was supported by the Japan Science and Technology Agency (JST grant number JPMJPF2017). The funders had no role in the design of the study; in the collection, analyses, or interpretation of data; in the writing of the manuscript; or in the decision to publish the results.
関係別子タイプ	Crossref Funder https://doi.org/10.13039/501100002241 科学技術振興機構(JST)
関係別子	ja Japan Science and Technology Agency (JST)
関係別子	en 研究課題番号URI https://projectdb.jst.go.jp/grant/JST-PROJECT-20354454/ 研究課題番号 JPMJPF2017 研究課題名 つくば型デジタルバイオエコノミー社会形成の国際拠点
言語	ja
Publish Status	Public <input type="button" value="Change to Private"/>

マッピングしている情報はOAI-PMHで確認できる

戻る 編集 削除

v. システム連携による登録データの送信（OAI-PMHの確認）

This XML file does not appear to have any style information associated with it. The document tree is shown below.

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<OAI-PMH xmlns="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/http://www.openarchives.org/OAI/2.0/OAI-PMH.xsd">
  <responseDate>2024-11-28T05:02:53Z</responseDate>
  <request identifier="oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:02013581" metadataPrefix="jpcoar_1.0" verb="GetRecord">https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai</request>
  <GetRecord>
    <record>
      <header>
        <identifier>oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:02013581</identifier>
        <datestamp>2024-11-21T07:00:44Z</datestamp>
        <setSpec>3:62:1722555831928</setSpec>
      </header>
      <metadata>
        <jpcoar:jpcoar xmlns:datacite="https://schema.datacite.org/meta/kernel-4/" xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/" xmlns:dcndl="http://ndl.go.jp/dcndl/terms/" xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:jpcoar="https://github.com/JPCOAR/schema/blob/master/1.0/" xmlns:oaire="http://namespace.openscience.org/schema/oaire/" xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#" xmlns:rioxterms="http://www.riox.net/schema/v2.0/rioxterms/" xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns="https://github.com/JPCOAR/schema/blob/master/1.0/" xsi:schemaLocation="https://github.com/JPCOAR/schema/blob/master/1.0/jpcoar_scm.xsd">
          <dc:title xml:lang="en">Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between Cinnamoylquinic Acids in Neural Stem Cells from Adult Mice Brains</dc:title>
          <jpcoar:creator>
            <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Lin Hongyu</jpcoar:creatorName>
          </jpcoar:creator>
          <jpcoar:creator>
            <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Sasaki Kazunori</jpcoar:creatorName>
          </jpcoar:creator>
          <jpcoar:creator>
            <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Ferdousi Farhana</jpcoar:creatorName>
          </jpcoar:creator>
          <jpcoar:creator>
            <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Isoda Hiroko</jpcoar:creatorName>
          </jpcoar:creator>
          <jpcoar:creator/>
          <dcterms:accessRights rdf:resource="http://purl.org/coar/access_right/c_abf2">open access</dcterms:accessRights>
          <dc:rights xml:lang="en">© 2024 The Authors. Published by American Chemical Society. This publication is licensed under CC-BY-NC-ND 4.0 .</dc:rights>
          <jpcoar:subject xml:lang="en" subjectScheme="Other">cinnamoylquinic acids; 3,4,5-tri-feruloylquinic acid; neural stem cells; neurospheres; microarray; neurogenesis</jpcoar:subject>
          <datacite:description xml:lang="en" descriptionType="Abstract">Caffeoylquinic acids (CQAs) and feruloylquinic acids (FQAs), as cinnamoylquinic acids, have neurogenesis promotion effects. We studied for the first time the neurogenesis-enhancing effect of 3,4,5-tri-feruloylquinic acid (TFQA) compared to 3,4,5-tri-caffeoylquinic acid (TCQA), which has a similar structure, and explored their different cellular and molecular mechanisms in neural stem cells (NSCs) of mice brains. After 2 weeks of incubation, we first assessed the number and size of NSCs in TCQA and TFQA treatments. In NSCs treated with TCQA and TFQA, the NSC proliferation gene expression as well as neuronal and glial cell differentiation gene expressions improved. In the microarray assay, the erythroblastic oncogene B (ErbB) signaling pathway, as the common signaling of TCQA and TFQA treatments, was focused on and discussed. In our study, TCQA and TFQA treatments in NSCs showed a significant performance on improving synapse growth and neurogenesis compared with no treatment of NSCs. The two treatments in NSCs also had a significant activation of the ErbB signaling pathway, protein kinase B (AKT), and mitogen-activated protein kinase (MAPK) kinases. In particular, the TCQA-expressed proliferation gene myelocytomatosis oncogene (Myc) had the greatest connections significantly. TFQA treatment remarkably regulated the differentiation gene jun proto-oncogene (Jun), which was the gene with greatest direct relations, while Myc was also induced in TFQA treatment. In the overall quantitative real-time polymerase chain reaction (PCR) assay, TFQA had more outstanding neural proliferation and differentiation capabilities than TCQA in NSCs. Our study suggests that TFQA has greater therapeutic potential in neurogenesis promotion and neurodegenerative diseases compared with TCQA.</datacite:description>
        </jpcoar:metadata>
      </metadata>
    </record>
  </GetRecord>
</OAI-PMH>
```

v. システム連携による登録データの送信 (OAI-PMHの確認)

This XML file does not appear to have any style information associated with it. The document tree is shown below.

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<OAI-PMH xmlns="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:schemaLocation="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/
http://www.openarchives.org/OAI/2.0/OAI-PMH.xsd">
  <responseDate>2024-11-28T05:02:53Z</responseDate>
  <request identifier="oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:02013581" metadataPrefix="jpcoar" verb="GetRecord">https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai</request>
  <GetRecord>
    <record>
      <header>
        <identifier>oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:02013581</identifier>
        <timestamp>2024-11-21T07:00:44Z</timestamp>
        <setSpec>3:62:1722555831928</setSpec>
      </header>
      <metadata>
        <jpcoar:jpcoar xmlns:datacite="https://schema.datacite.org/meta/kernel-4/" xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/" xmlns:dcndl="http://ndl.go.jp/dcndl/
xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:jpcoar="https://github.com/JPCOAR/schema/blob/master/1.0/" xmlns:oaire="http://namespace.openscience.org/oaire/
xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#" xmlns:rioxterms="http://www.riox.net/schema/v2.0/rioxterms/" xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema
xmlns="https://github.com/JPCOAR/schema/blob/master/1.0/" xsi:schemaLocation="https://github.com/JPCOAR/schema/blob/master/1.0/jpcoar_scm.xsd">
          <dc:title xml:lang="en">Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between Cinnamoylquinic Acids in Neural Stem Cells from Adult Mice Brains</dc:title>
          <jpcoar:creator>
            <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Lin Hongyu</jpcoar:creatorName>
          </jpcoar:creator>
          <jpcoar:creator>
            <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Sasaki Kazunori</jpcoar:creatorName>
          </jpcoar:creator>
          <jpcoar:creator>
            <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Ferdousi Farhana</jpcoar:creatorName>
          </jpcoar:creator>
          <jpcoar:creator>
            <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Isoda Hiroko</jpcoar:creatorName>
          </jpcoar:creator>
          <dcterms:accessRights rdf:resource="http://nurl.org/coar/access_right/c_abf7">open access</dcterms:accessRights>
          <dc:rights xml:lang="en">© 2024 The Authors. Published by American Chemical Society. This publication is licensed under CC-BY-NC-ND 4.0</dc:rights>
          <jpcoar:subject xml:lang="en" subjectScheme="Other">cinnamoylquinic acids; 3,4,5-tri-feruloylquinic acid; neural stem cells; neurospheres; microarray;
neurogenesis</jpcoar:subject>
          <datacite:description xml:lang="en" descriptionType="Abstract">Caffeoylquinic acids (CQAs) and feruloylquinic acids (FQAs), as cinnamoylquinic acids, have neurogenesis
promotion effects. We studied for the first time the neurogenesis-enhancing effect of 3,4,5-tri-feruloylquinic acid (TFQA) compared to 3,4,5-tri-caffeoylquinic acid
(TCQA), which has a similar structure, and explored their different cellular and molecular mechanisms in neural stem cells (NSCs) of mice brains. After 2 weeks of
incubation, we first assessed the number and size of NSCs in TCQA and TFQA treatments. In NSCs treated for TCQA and TFQA, the NSC proliferation gene expression as well as
neuronal and glial cell differentiation gene expressions improved. In the microarray assay, the erythroblastic oncogene B (ErbB) signaling pathway, as the common signaling
of TCQA and TFQA treatments, was focused on and discussed. In our study, TCQA and TFQA treatments in NSCs showed a significant performance on improving synapse growth and
neurogenesis compared with no treatment of NSCs. The two treatments in NSCs also had a significant activation of the ErbB signaling pathway, protein kinase B (AKT), and
mitogen-activated protein kinase (MAPK) kinases. In particular, the TCQA-expressed proliferation gene myelocytomatosis oncogene (Myc) had the greatest connections
significantly. TFQA treatment remarkably regulated the differentiation gene jun proto-oncogene (Jun), which was the gene with greatest direct relations, while Myc was also
induced in TFQA treatment. In the overall quantitative real-time polymerase chain reaction (PCR) assay, TFQA had more outstanding neural proliferation and differentiation
capabilities than TCQA in NSCs. Our study suggests that TFQA has greater therapeutic potential in neurogenesis promotion and neurodegenerative diseases compared with TCQA.
</datacite:description>
        </jpcoar:jpcoar>
      </metadata>
    </record>
  </GetRecord>
</OAI-PMH>
```

oai ID
IRDBでの検索
の際に使えます

アイテムの最終更新日
この日付が、前回の定時ハーベストと
次回の定時ハーベストの間でないと
ハーベスト対象になりません

タイトル

著者

アクセス権

権利情報

キーワード

**抄録
内容記述**

v. システム連携による登録データの送信（OAI-PMHの確認）

```
<datacite:description xml:lang="en" descriptionType="Other">TCQA and TFQA were provided by Dr. Tominaga Kenichi and Masataka Hatanaka (AIST). This work was supported by the Japan Science and Technology Agency (JST grant number JPMJPF2017). The funders had no role in the design of the study; in the collection, analyses, or interpretation of data; in the writing of the manuscript; or in the decision to publish the results.</datacite:description>
<dc:publisher xml:lang="en">American Chemical Society</dc:publisher>
<datacite:date dateType="Issued">2024-09-30</datacite:date>
<dc:language>eng</dc:language>
<dc:type rdf:resource="http://purl.org/coar/resource_type/c_6501">journal article</dc:type>
<oaire:version rdf:resource="http://purl.org/coar/version/c_970fb48d4fbd8a85">VoR</oaire:version>
<jpcoar:identifier identifierType="HDL">http://hdl.handle.net/2241/0002013581</jpcoar:identifier>
<jpcoar:identifier identifierType="URI">https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/2013581</jpcoar:identifier>
▼<jpcoar:relation>
  <jpcoar:relatedIdentifier identifierType="PMID">39348888</jpcoar:relatedIdentifier>
</jpcoar:relation>
▼<jpcoar:relation relationType="isIdenticalTo">
  <jpcoar:relatedIdentifier identifierType="DOI">https://doi.org/10.1021/acscchemneuro.4c00329</jpcoar:relatedIdentifier>
</jpcoar:relation>
▼<jpcoar:fundingReference>
  <datacite:funderIdentifier funderIdentifierType="Crossref Funder">https://doi.org/10.13039/501100002241</datacite:funderIdentifier>
  <jpcoar:funderName xml:lang="ja">科学技術振興機構 (JST)</jpcoar:funderName>
  <jpcoar:funderName xml:lang="en">Japan Science and Technology Agency (JST)</jpcoar:funderName>
  <datacite:awardNumber awardURL="https://projectdb.jst.go.jp/grant/JST-PROJECT-20354454/">JPMJPF2017</datacite:awardNumber>
  <jpcoar:awardTitle xml:lang="ja">つくば型デジタルバイオエコノミー社会形成の国際拠点</jpcoar:awardTitle>
</jpcoar:fundingReference>
<jpcoar:sourceIdentifier identifierType="PISSN">1948-7193</jpcoar:sourceIdentifier>
<jpcoar:sourceTitle xml:lang="en">ACS Chemical Neuroscience</jpcoar:sourceTitle>
<jpcoar:volume>15</jpcoar:volume>
<jpcoar:issue>20</jpcoar:issue>
<jpcoar:pageStart>3713</jpcoar:pageStart>
<jpcoar:pageEnd>3723</jpcoar:pageEnd>
<jpcoar:conference/>
▼<jpcoar:file>
  <jpcoar:URI objectType="fulltext">https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/2013581/files/ACSCN_15-20-3713.pdf</jpcoar:URI>
  <jpcoar:mimeType>application/pdf</jpcoar:mimeType>
  <jpcoar:extent>5.0 MB</jpcoar:extent>
  <datacite:date dateType="Available">2024-11-20</datacite:date>
</jpcoar:file>
</jpcoar:jpcoar>
</metadata>
</record>
</GetRecord>
</OAI-PMH>
```

v. システム連携による登録データの送信 (OAI-PMHの確認)

The diagram illustrates the structure of an OAI-PMH record for a journal article. The XML code is color-coded to match the callout boxes. The callouts are as follows:

- 謝辞・助成情報 内容記述**: Points to the `<datacite:description>` element.
- 出版社**: Points to the `<dc:publisher>` element.
- 言語**: Points to the `<dc:language>` element.
- 発行日**: Points to the `<datacite:date dateType="issued">` element.
- 資源タイプ**: Points to the `<dc:type>` element.
- 出版タイプ**: Points to the `<dc:type>` element.
- 識別子**: Points to the `<jpcoar:identifier identifierType="HDL">` element.
- 関連情報 識別子**: Points to the `<jpcoar:relation relationType="isIdenticalTo">` element.
- 助成情報**: Points to the `<jpcoar:fundingReference>` element.
- 収録物 識別子**: Points to the `<incoar:sourceIdentifier identifierType="PISSN">` element.
- 書誌情報**: Points to the `<jpcoar:sourceTitle>` element.
- ファイル情報 本文URL**: Points to the `<jpcoar:file>` element.
- ファイル情報 フォーマット**: Points to the `<jpcoar:mimeType>` element.
- ファイル情報 ファイルサイズ**: Points to the `<jpcoar:extent>` element.
- ファイル情報 日付**: Points to the `<datacite:date dateType="Available">` element.

v. システム連携による登録データの送信（OAI-PMHの確認）

アイテム	
コンテンツタイプ / 雑誌発表論文等 / 海外雑誌	
Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between Cinnamoylquinic Neural Stem Cells from Adult Mice Brains	
名前 / ファイル	ライセンス
ACSCN_15-20-3713.pdf (5.0 MB)	
ダウンロード Information	
Item type	共通アイテムタイプ(1)
公開日	2024-11-20
タイトル	
タイトル	Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between Cinnamoylquinic Acids in Neural Stem Cells from Adult Mice Brains
言語	en
言語	
言語	eng
資源タイプ	
資源タイプ識別子	http://purl.org/coar/resource_type/c_6501
資源タイプ	journal article
著者	Lin Hongyu Sasaki Kazunori Ferdousi Farhana Isoda Hiroko
著者情報	
表示名	数理工学系; 佐々木, 一彦; ササキ, カズノリ; SASAKI, Kazunori
URL	http://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000003867
著者情報	
表示名	生命環境系; フェルドウシ, ファラハナ; フェルドウシ, ファラハナ; FERDOUSI, Farhana
URL	http://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000004478
著者情報	
表示名	生命環境系; 磯田, 博子; イソダ, ヒロコ; ISODA, Hiroko
URL	http://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000001303
抄録	
内容記述タイプ	Abstract
内容記述	Caffeoylquinic acids (CQAs) and feruloylquinic acids (FQAs), as cinnamoylquinic acids, have neurogenesis promotion effects. We studied for the first time the neurogenesis-enhancing effect

```

<OAI-PMH xmlns="http://www.openarchives.org/OAI/2.0/" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001
http://www.openarchives.org/OAI/2.0/OAI-PMH.xsd">
  <responseDate>2024-11-28T05:02:53Z</responseDate>
  <request identifier="oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:02013581" metadataPrefix="jpcoar_1.0"
  <GetRecord>
    <record>
      <header>
        <identifier>oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:02013581</identifier>
        <datestamp>2024-11-21T07:00:44Z</datestamp>
        <setSpec>3:62:1722555831928</setSpec>
      </header>
      <metadata>
        <jpcoar:jpcoar xmlns:datacite="https://schema.datacite.org/meta/kernel-4/" xmlns:
xmlns:dcterms="http://purl.org/dc/terms/" xmlns:jpcoar="https://github.com/JPCO
xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#" xmlns:rioxterms="http:
xmlns="https://github.com/JPCOAR/schema/blob/master/1.0/" xsi:schemaLocation="h
        <dc:title xml:lang="en">Comparison of Neurogenesis Promotion Effects between
        <jpcoar:creator>
          <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Lin Hongyu</jpcoar:creatorName>
        </jpcoar:creator>
        <jpcoar:creator>
          <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Sasaki Kazunori</jpcoar:creatorName>
        </jpcoar:creator>
        <jpcoar:creator>
          <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Ferdousi Farhana</jpcoar:creatorName>
        </jpcoar:creator>
        <jpcoar:creator>
          <jpcoar:creatorName xml:lang="en">Isoda Hiroko</jpcoar:creatorName>
        </jpcoar:creator>
        <jpcoar:creator/>
        <dcterms:accessRights rdf:resource="http://purl.org/coar/access_right/c_abf2"
        <dc:rights xml:lang="en">© 2024 The Authors. Published by American Chemical
        <jpcoar:subject xml:lang="en" subjectScheme="Other">cinnamoylquinic acids; 3,
neurogenesis</jpcoar:subject>
  
```

つくばリポジトリでは「著者情報」の項目はマッピングを行っていないのでOAI-PMHでは出力されません =ハーベストされない

v. システム連携による登録データの送信（OAI-PMHの確認）

【実習】

WEKO3利用機関のリポジトリでOAI-PMHに出力されていないメタデータ項目はあるか確認してみましょう

- JPCOAR会員機関一覧

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1oNjykJAjC2uvTV0KdUHfIOwOq0Y7tMSqc10GivORNFMc/edit?usp=sharing>

- WEKO3先行移行機関一覧

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/record/605/files/%E5%85%88%E8%A1%8C%E7%A7%BB%E8%A1%8C%E5%AF%BE%E8%B1%A1%E6%A9%9F%E9%96%A2%E4%B8%80%E8%A6%A7.xlsx>

**v. システム連携による登録データの送信
ハーベスト処理結果の確認編**

v. システム連携による登録データの送信（ハーベスト処理結果の確認）

差出人 学術機関リポジトリデータベース 

返信  リストに返信  転送  アーカイブ  迷惑マークを付ける  削除  その他  ☆

宛先 リポジトリ担当  2024/11/21 18:11

Cc 学術機関リポジトリデータベース 

件名 ハーベスト処理結果の通知メールです。

List-ID <tulips-r.tulips.tsukuba.ac.jp>

※このメールは送信専用のメールアドレスから配信しており、ご返信いただいてもご対応いたしかねます。
お問い合わせは以下のフォームからお願いいたします。

<https://support.irdb.nii.ac.jp/ja/form/contact>

ハーベスト処理結果の通知メールです。

つくばリポジトリ BaseURL:<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai>

前回ハーベスト開始日時：2024-11-21 18:00:06

前回ハーベスト終了日時：2024-11-21 18:11:59

ハーベスト対象データ件数：654 登録件数：61 更新件数：590 削除件数：2 データ取得エラー：0

レコードエラー件数：1 項目エラー件数：0 ワーニング件数：0 項目変換件数：0

確認先URL：<https://irdb.nii.ac.jp/usercontents>

■ 該当アイテムのURL = <http://hdl.handle.net/2241/0002013547>

https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai?verb=GetRecord&metadataPrefix=jpcoar_1.0&identifier=oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:02013547

●
レコードエラー：アイテムはIRDBに登録されていません。

[タイトル] 言語が重複しています。(ja)

v. システム連携による登録データの送信（ハーベスト処理結果の確認）

今回のハーベストで対象となった件数

登録件数 + 更新件数 + 削除件数 + レコードエラー

件名：ハーベスト処理結果の通知メールです。

ハーベスト処理結果の通知メールです。

信州大学機関リポジトリ BaseURL : <https://xxxxxxx.repo.nii.ac.jp/oai>

前回ハーベスト開始日時：2023-11-28 18:07:49

前回ハーベスト終了日時：2023-11-28 18:07:52

ハーベスト対象データ件数：3 登録件数：2 更新件数：1 削除件数：0 データ取得エラー：0

レコードエラー件数：0 項目エラー件数：3 ワーニング件数：6 項目変換件数：0

確認先URL : <https://irdb.nii.ac.jp/usercontents>

ここからハーベスト結果の詳細を確認できる。
(要ID・パスワード)

■ = ■ + ■ : 前回から変化があったアイテム数。
■ : アイテム自体のハーベスト回避になるエラーがあったアイテム。メールにエラー内容が記載される。
■ : IRDBのサイトで内容を確認する。エラー項目はハーベストされないで空値or前回ハーベスト時のまま、ワーニングは不備はあるもののハーベストされている。

■・■・■はアイテム数、■は項目数なので
■ < ■ となることもある。

削除件数

削除情報を出力していた件数
≠ 削除した件数
なので要注意

レコードエラーの詳細

レコードエラーだけメールの本文に詳細が記載される

■ 該当アイテムのURL = <http://hdl.handle.net/xxxx/xxxxxxxxxx>

https://xxxxxxx.repo.nii.ac.jp/oai?verb=GetRecord&metadataPrefix=jpcoar_1.0&identifier=oai:xxxxxxx.repo.nii.ac.jp:xxxxxxx

●
レコードエラー：アイテムはIRDBに登録されていません。
[タイトル] 言語が重複しています。(ja)

DOIを付与して登録したアイテムがレコードエラーになった場合、該当URLにDOIが表示されるが有効化前なのでアクセスしてもNotFoundとなる。
その場合は、その下のOAI-PMHのURLから識別子欄を確認するとアイテムのURL(やHDL)がわかる

第4回JPCOAR Webinar「IRDB-カラクリと役割：どこから・どこへ・どのように」
ハーベストの概略とIRDBの基本的な活用
<https://doi.org/10.34477/0002000349>

v. システム連携による登録データの送信（ハーベスト処理結果の確認）

●エラー/ワーニングになったアイテムの再ハーベストについて

ハーベスト対象になるアイテムは、
新規登録/最終更新日時が前回のハーベスト日時より新しいもの。

エラー/ワーニングになったアイテムでも、
修正が行われるまでは次回以降ハーベスト対象にならない。

ハーベスト対象データ件数：3	登録件数：2	更新件数：1	削除件数：0	データ取得エラー：0
レコードエラー件数：0	項目エラー件数：3	ワーニング件数：6	項目変換件数：0	

エラーが有っても修正しなければ翌週は



ハーベスト対象データ件数：0	登録件数：0	更新件数：0	削除件数：0	データ取得エラー：0
レコードエラー件数：0	項目エラー件数：0	ワーニング件数：0	項目変換件数：0	

v. システム連携による登録データの送信（ハーベスト処理結果の確認）

1. ハーベスト処理結果通知メールを確認

件名 ハーベスト処理結果の通知メールです。

※このメールは送信専用のメールアドレスから配信しており、ご返信いただいてもご対応いたしかねます。

お問い合わせは以下のフォームからお願いいたします。

<https://support.irdb.nii.ac.jp/ja/form/contact>

ハーベスト処理結果の通知メールです。

つくばリポジトリ BaseURL:<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai>

前回ハーベスト開始日時：2023-12-21 18:00:06

前回ハーベスト終了日時：2023-12-21 18:12:27

ハーベスト対象データ件数：2076 登録件数：83 更新件数：1990 削除件数：1 データ取得エラー：0

レコードエラー件数：2 項目エラー件数：99 ワーニング件数：1866 項目変換件数：0

確認先URL：<https://irdb.nii.ac.jp/usercontents>

削除アイテムは、
IRDBの検索およびマイコンテンツを
利用し削除されているか確認できる

項目エラー・ワーニングは、
確認先URLからアクセスできる
IRDBのマイコンテンツから確認できる
(要ID・パスワード)

ハーベスト対象データ件数 =
登録件数 + 更新件数 + 削除件数
+ レコードエラー件数

レコードエラーは、
メール本文に直接記載されている

■ 該当アイテムのURL = <http://hdl.handle.net/2241/00136408>

https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai?verb=GetRecord&metadataPrefix=jpcoar_1.0&identifier=oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:00037263



レコードエラー：アイテムはIRDBに登録されていません。

[タイトル] 言語が重複しています。(en)

レコードエラー1件目

■ 該当アイテムのURL = <http://hdl.handle.net/2241/00136409>

https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai?verb=GetRecord&metadataPrefix=jpcoar_1.0&identifier=oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:00037264



レコードエラー：アイテムはIRDBに登録されていません。

[タイトル] 言語が重複しています。(en)

レコードエラー2件目

修正の優先度

高 レコードエラー



中 項目エラー



低 ワーニング

v. システム連携による登録データの送信（ハーベスト処理結果の確認）

2. 学術機関リポジトリデータベース（IRDB）サイトにログインし、マイコンテンツにて項目エラーとワーニングの詳細を取得

つくばリポジトリ BaseURL:<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai>
前回ハーベスト開始日時: 2023-12-21 18:00:06
前回ハーベスト終了日時: 2023-12-21 18:12:27
ハーベスト対象データ件数: 2076 登録件数: 83 更新件数: 1990 削除件数: 1 データ取得エラー: 0
レコードエラー件数: 2 項目エラー件数: 99 ワーニング件数: 1866 項目変換件数: 0

1日前の日付を入力する

(項目エラーを調べる場合)
「1」を入力し、「検索」実行する

ワーニングを調べたい場合は、
こちらに「1」を入力し、「検索」実行する

ハーベスト処理結果通知メールの項目エラー件数（99件）とIRDBマイコンテンツで検索した結果（32件）が異なっているように見えるのは、
・前者は項目エラーの箇所の総数
・後者は項目エラーになっているアイテムの総数
を表示しているから
検索結果として表示された一覧の項目エラー件数を全て足すと処理結果通知メールの件数と同数になる

ちなみに今回エラーが多くなった原因は、インデックスの更新を行ったことで、紐づいていたアイテムのdatestampが更新されたことにより、移行時にエラーになっていたアイテムが再ハーベストされたため

32 件中の 1 件目 ~ 32 件目を表示

oai-id	OAI連携先種別	項目エラー件数	ワーニング件数	項目変換件数	メッセージ	DOI	更新日時
oai.tsukuba.repo.nii.ac.jp:00054760	cinia, irdb	2	6	0	<ul style="list-style-type: none">■ 該当アイテムのURL = http://hdl.handle.net/2241/00160169 https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai?verb=GetRecord&metadataPrefix=jpcoar_1.0&identifier=oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:00054760・ 項目登録エラー: 対象項目のみ削除されてアイテムがIRDBに登録されています。 [作成者姓名] 日本語が設定されていません。・ ワーニング: 対象項目のワーニングです。対応項目を含めてアイテムはIRDBに登録されています。 [タイトル] タイトルと言語が一致していません。(jpn->...) [タイトル] 言語が未設定です。(報告) 菅平高原での冬季実習を通じたフィールド教育 [作成者姓名] 言語が未設定です。(上野, 健一) [作成者姓名] 言語が未設定です。(川瀬, 宏明) [出版タイプ] 出版タイプに値が設定されていません。 [収録物識別子] 識別子にISSNが設定されています。(ISSN:03731006)		2023/12/21 - 18:12

v. システム連携による登録データの送信（ハーベスト処理結果の確認）

3. 取得したデータをExcelに貼付け、グループピングする

- ① **ページCSV出力** からCSVファイルを取得するか、
検索結果一覧を全選択してコピー後、Excelに貼り付ける

筑波大学では、
検索結果一覧を全選択してコピー後、
Excelに貼り付ける方法で行っています。
(作業工数が少なく楽なので)

32件中の 1 件目 ~ 32 件目を表示

oai-id	OAI連携 先種別	項目 エラー 一件 数	ワー ニング 件 数	項目 交換 件数	メッセージ	DOI	更新日時
oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:00054760	cinii, irdb	2	6	0	<ul style="list-style-type: none">■ 該当アイテムのURL = http://hdl.handle.net/2241/00160169 https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai?verb=GetRecord&metadataPrefix=jpcoar_1.0&identifier=oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:00054760• 項目登録エラー：対象項目のみ削除されてアイテムがIRDBに登録されています。 [作成者姓名] 日本語が設定されていません。 [作成者姓名] 日本語が設定されていません。• ワーニング：対象項目のワーニングです。対応項目を含めてアイテムはIRDBに登録されています。 [タイトル] タイトルと言語が一致していません。 (jpn->-)[タイトル] 言語が未設定です。 (<報告>菅平高原での冬季実習を通じたフィールド教育)[作成者姓名] 言語が未設定です。 (上野, 健一)[作成者姓名] 言語が未設定です。 (川瀬, 宏明)[出版タイプ] 出版タイプに値が設定されていません。[収録物識別子] 識別子にISSNが設定されています。 (ISSN:03731006)		2023/12/21 - 18:12
oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:00054613	cinii, irdb	2	7	0	<ul style="list-style-type: none">■ 該当アイテムのURL = http://hdl.handle.net/2241/00160026 https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai?verb=GetRecord&metadataPrefix=jpcoar_1.0&identifier=oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:00054613• 項目登録エラー：対象項目のみ削除されてアイテムがIRDBに登録されています。 [作成者姓名] 日本語が設定されていません。 [作成者姓名] 日本語が設定されていません。• ワーニング：対象項目のワーニングです。対応項目を含めてアイテムはIRDBに登録されています。 [タイトル] タイトルと言語が一致していません。 (jpn->-)		2023/12/21 - 18:12

v. システム連携による登録データの送信（ハーベスト処理結果の確認）

4. グループピング（件数が多い場合のみ）

「該当アイテムのURL」からアイテム詳細画面にアクセスし、
雑誌名や著者名で共通する部分がないか確認
⇒ 共通する部分があれば一括修正ができる！

今回のハーベストはエラーが多かったため
雑誌名を追記し、グループピングを行いました

A	C	D	F	G	H
	項目エラー件数	ワーニング件数	メッセージ	DOI	更新日時
1					
2			雷水		
3					
4			■ 該当アイテムのURL = http://hdl.handle.net/2241/00160169 https://sukuoa.repo.nii.ac.jp/oar/ver0=5&tr=records&metadata&remx=jpcoar_1.us&idnumber=oar:sukuoa.repo.nii.ac.jp:uuu54760		
5					
6					
7	oai:tsuku		● 項目登録エラー：対象項目のみ削除されてアイテムがIRDBに登録されています。		
8	ba.repo.n	2	[作成者姓名] 日本語が設定されていません。		2023/12/
9	ilac.jp.00	6	[作成者姓名] 日本語が設定されていません。		21 -
10	054760		● ワーニング：対象項目のワーニングです。対応項目を含めてアイテムがIRDBに登録されています。		18:12
11			[タイトル] タイトルと言語が一致していません。 (jp->-)		
12			[タイトル] 言語が未設定です。 (<報告> 香平高原での冬季実習を通じたフィールド教育)		
13			[作成者姓名] 言語が未設定です。 (上野, 健一)		
14			[作成者姓名] 言語が未設定です。 (川瀬, 定明)		
15			出版タイプ] 出版タイプに値が設定されていません。		
16			[取録物識別子] 識別子にISSNが設定されています。 (ISSN:03731006)		
17			日本森林学会誌		
18					
19			■ 該当アイテムのURL = http://hdl.handle.net/2241/00160026 https://sukuoa.repo.nii.ac.jp/oar/ver0=5&tr=records&metadata&remx=jpcoar_1.us&idnumber=oar:sukuoa.repo.nii.ac.jp:uuu54613		
20					
21					
22			● 項目登録エラー：対象項目のみ削除されてアイテムがIRDBに登録されています。		
23	oai:tsuku		[作成者姓名] 日本語が設定されていません。		
24	ba.repo.n	2	[作成者姓名] 日本語が設定されていません。		2023/12/
25	ilac.jp.00	7	● ワーニング：対象項目のワーニングです。対応項目を含めてアイテムがIRDBに登録されています。		21 -
26	054613		[タイトル] タイトルと言語が一致していません。 (jp->-)		18:12
27			[タイトル] 言語が未設定です。 (公共機関物への取録物利用による経済波及効果：増産果さざと幼樹園さざと保育園を本誌)		
28			[作成者姓名] 言語が未設定です。 (穂積, 悠宇至)		
29			[作成者姓名] 言語が未設定です。 (立花, 敬)		
30			[作成者姓名] 言語が未設定です。 (氏家, 清和)		
31			出版タイプ] 出版タイプに値が設定されていません。		
32			[取録物識別子] 識別子にISSNが設定されています。 (ISSN:1349-8509)		

**v. システム連携による登録データの送信
IRDB検索編**

v. システム連携による登録データの送信（IRDB 検索）

個別のアイテムのハーベスト状況の確認

<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/2009108>

IRDBのマイコンテンツからは
個別のアイテムの状態の詳細を
確認することもできます

タイトル	ja : <資料紹介>三浦周行が視察した海外アーカイブズ（上） en : <Historical Documents>Foreign Archives Inspected by Miura Hiroyuki (Part I)
作成者	ja : 筒井, 弥生 en : Tsutsui, Yayoi
アクセス権	open access
出版者	ja : 筑波大学アーカイブズ en : University of Tsukuba Archives
日付	Issued : 2023-05
言語	jpn
資源タイプ	departmental bulletin paper
資源識別子	DOI : https://doi.org/10.15068/0002009108 , HDL : http://hdl.handle.net/2241/000209108 , URI : https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/2009108
ID	JaLC : 10.15068/0002009108
収録誌情報	PISSN - 2434-1266 NCID - AA12831670 ja : 筑波大学アーカイブズ年報 en : Annual report of the University of Tsukuba Archives 巻 : 6 開始ページ : 83 終了ページ : 91
ファイル	fulltext : https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/2009108/files/ARUTA_6-83.pdf (application/pdf) Available : 2023-12-05
コンテンツ更新日時	2023-12-07

oai-id: 2009108

更新日付(開始日):

更新日付(終了日):

項目エラー件数(以上を検索):

ワーニング件数(以上を検索):

項目変換件数(以上を検索):

検索

1 件中の 1 件目 ~ 1 件目を表示

oai-id	OAI連携先種別	項目エラー件数	ワーニング件数	項目変換件数	メッセージ	DOI	更新日時
oai:tsukuba.repo.nii.ac.jp:02009108	jalc, ciniia, irdb	0	0	0		JaLC:10.15068/0002009108	2023/12/07 - 18:09

ページCSV出力

2023/12/07の18:09にハーベストされた、DOIを付与したアイテムで、エラーなく収集された。OAI連携先種別に記載されているように、今後JaLC・CiNii・IRDBに連携され検索できるようになる予定であることがわかる。

v. システム連携による登録データの送信 (IRDB 検索)

削除アイテムの確認方法

つくばリポジトリ BaseURL:<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/oai>

前回ハーベスト開始日時: 2023-12-21 18:00:06

前回ハーベスト終了日時: 2023-12-21 18:12:27

ハーベスト対象データ件数: 2076 登録件数: 83 更新件数: 1990 削除件数: 1 データ取得エラー: 0

レコードエラー件数: 2 項目エラー件数: 99 ワーニング件数: 1866 項目変換件数: 0

<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/2005735>

個別登録し、ハーベストがされた後、ハンドルIDが付与されていなかったことに気づき、空更新やインポートによる更新を試したが解消されなかったため、別途新たに登録し直したところ、そちらにはハンドルIDが付与されたので、削除することにしたアイテム

一度でもハーベストされたアイテムを削除したい場合は、リポジトリ上で削除する前に削除情報をハーベストさせる必要があります

ハーベスト処理結果通知メールで削除件数に数値が記載されていれば削除情報が伝わったことになる

IRDBの検索にてタイトルを入力するか、マイコンテンツにてoai-idを検索し本当に削除されたかを確認する

歴聖大儒像：儒者のまなざし (修復完成記念特別公開チラシ)

検索

すべて 本文あり

詳細検索

絞り込み条件

1件中の1件目~1件目を表示

20件ずつ表示 レコード番号(新しい順) CSV出力 Refer/BibIX出力 BibTeX出力

歴聖大儒像：儒者のまなざし (修復完成記念特別公開チラシ)

筑波大学附属図書館

日付: 2022

つくばリポジトリ: 筑波大学

oai-id: 2005735

OAI連携先種別: -すべて-

更新日付(開始日):

更新日付(終了日):

メッセージ: -すべて-

項目エラー件数(以上を検索):

項目変換件数(以上を検索):

検索

0件中の0件目~0件目を表示

oai-id	OAI連携先種別	項目エラー件数	ワーニング件数	項目変換件数	メッセージ	DOI	更新日時
No content available.							

ページCSV出力

IRDBの検索機能でも、登録し直したアイテムのみが表示されている ⇒ IRDBから削除されたので、リポジトリからも削除してOK

vi. アイテムの修正や削除

vi. アイテムの修正や削除

レコードエラーで見かけたエラー①

- ・ [タイトル] 言語が重複しています。 (en)

修正優先度：高

⇒ 日本語タイトル、英語タイトルともに言語を誤って「en」と設定していた

- ・ [JaLC DOI 必須項目] creatorName 言語属性が見つかりません。

修正優先度：高

⇒ DOI付与論文の作成者姓名言語設定漏れ

- ・ [作成者] 作成者が設定されていません。

修正優先度：高

⇒ 博論登録時に作成者を記入忘れ

vi. アイテムの修正や削除

レコードエラーで見かけたエラー②

- ・ [博士論文] アクセス権にOpen access以外が設定されています。 修正優先度：高

⇒設定漏れ

- ・ [jalco] DOI付与済みのアイテムから、DOIが削除されています。

⇒DOIを取り下げたアイテムのため 修正不可

vi. アイテムの修正や削除

項目エラーで見かけたエラー①

- ・ [作成者姓名] 日本語が設定されていません。

修正優先度：中

⇒ ja-Kanaを設定している作成者姓名がある際に、日本語姓名はあるが言語設定漏れ、
または、英語姓名とカナ姓名の2つのみが登録されている

- ・ [作成者姓名] 言語が重複しています (en)

修正優先度：中

⇒ タイトル言語が重複するとレコードエラーになるが、作成者姓名が重複すると項目エラーに

- ・ [日付] 日付種別が設定されていません。 (2022)

修正優先度：中

⇒ 「Issued」設定漏れ

vi. アイテムの修正や削除

項目エラーで見かけたエラー②

- ・ [関連情報] prefixの形式が不正です。

修正優先度：中

⇒URLに余計な文字が入っている

vi. アイテムの修正や削除

ワーニングで見かけるエラー①

- ・ [タイトル] タイトルと言語が一致していません。(jpn->---) 修正優先度：低

⇒ タイトル言語が未設定の際にも出てくるエラー

- ・ [タイトル] 言語が未設定です。 修正優先度：低

⇒ タイトル言語設定漏れ

- ・ [作成者姓名] 言語が未設定です。 修正優先度：低

⇒ 作成者姓名言語設定漏れ

vi. アイテムの修正や削除

ワーニングで見かけるエラー②

- ・ [出版タイプ] 出版タイプに値が設定されていません。 修正優先度：低

⇒学術雑誌論文において、出版タイプ（AO,AM,VoR）設定漏れ

- ・ [収録物識別子] 識別子にISSNが設定されています。 修正優先度：低

⇒PISSNやEISSNでなくISSNになっている

- ・ [博士論文] 本文URL(全文)がないため、博士論文提出チェックは実行されませんでした。

⇒やむを得ない事由により本文(fulltext)でなく要約(summary)を登録した場合に発生のため

修正不要

おまけコンテンツ

- PDFについて
 - 文字のPDFと画像のPDFの区別
 - プロパティとは
 - OCR
 - 分割・結合・整理
 - トリミング・墨消し・編集
- WEK03利用機関向け：障害では？と思った時どうすればいいのか
 - 障害報告のためにどのような情報が必要か
 - ML投稿前に確認すべきところ

PDFについて

文字のPDFと画像のPDFの区別

- Adobe Acrobat Pro（製品版で無償のAdobe Readerではない）を使って開き、ファイルメニューの、文書のプロパティ＞フォントを開いた際に、フォント名が表示された場合は、テキスト付PDF
- PDFファイルの文字をドラッグして選択してコピーでき、メモ帳などのテキストエディタにペーストできれば、テキスト付PDF
- 画像のPDFはデータが重い（データ量が多い）傾向にある

- ファイル＞文書のプロパティは確認したことはありますか？

→まれに著者ではない別人が作成者になっていることや、作成者欄にメールアドレスなどの個人情報が含まれている場合があります。

特に博士論文はその傾向が強いので要注意。

また、Word原稿で著者版原稿を受領後、リポジトリ担当者がPDF化する際にも要注意

PDF編集(OCR処理)

- Adobe Acrobat ProやOCRソフトを使うと、画像のPDFをスキャンしてテキスト付PDFに変換することができます。

例)

<https://helpx.adobe.com/jp/acrobat/using/scan-documents-pdf.html>

PDF編集（分割、結合）

- Adobe Acrobat ProでPDFを分割、結合等する方法

例)

<https://helpx.adobe.com/jp/acrobat/using/manipulating-deleting-renumbering-pdf-pages.html>

- 墨消し

<https://helpx.adobe.com/jp/acrobat/using/removing-sensitive-content-pdfs.html>

- 墨消しをやめて復元する

<https://www.adobe.com/jp/acrobat/hub/how-to-remove-redactions-pdf.html>

- トリミング

<https://helpx.adobe.com/jp/acrobat/using/crop-pdf-pages.html>

WEK03利用機関向け

障害では？と思った時どうすればいいのか

【誤解】

システムベンダーは、自由に障害が起きている機関の環境に入って、
障害の原因を確認したり、障害の解除ができる
ログも簡単に見つけることができる

【事実】

各機関の環境に入るには煩雑な手続きが必要
システムベンダー側が持っている仮想環境で再現できる障害であれば
障害復旧は早い
具体的な日時がないと、ログを調べるのはとても大変な作業

では、担当者はどうすればいいのか？

- エラーが起こった時の日時を控える

何年何時何分（何秒）

細かければ細かいほど、システムベンダーがログを調べやすい

- エラー画面のスクショを撮る

システムベンダーが目で見te実際のエラー画面を把握できる

言葉で伝えるのであれば、エラーメッセージを勝手に言い変えない

- 障害が起こるに至った際に行った作業を書き出す

どんな作業を行ったら、そのエラーが起こったのか

詳しくければ詳しいほど、システムベンダー側の仮想環境で再現できるか試せる

WEK03利用機関向け：障害では？と思った時どうすればいいのか

- 過去に同様の事例はないか

- MLやMLアーカイブを確認する

- https://docs.google.com/spreadsheets/d/1blcztunJoQ6Wjq0hXGvCgbEpt4vI8kB1P33M6Za_Re8/edit?usp=sharing

- リリースノートを確認する

- <https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/pages/viewpage.action?pageId=63875565>

- 非公式まとめを確認する

- https://wiki.code4lib.jp/wiki/JAIRO_Cloud

障害報告を行うときに投稿テンプレートを守っていますか？

投稿例を確認していますか？

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/155>

【メール件名】 【質問 or 障害 or 要望】 アイテム詳細画面のエラーについて（JPCOAR大学）

【メール本文】

発生日時*

発生環境*（ブラウザ・OS）

質問内容*

状況確認手順（現象の再現手順（どの画面やデータで、何を、どのように操作すると発生するのか））

確認済み事項*

質問関連URL（特にアイテム関連の場合はアイテムのURLをお知らせください）

自機関リポジトリURL*

ドキュメント関連箇所（WEKO 3 関連マニュアル等の該当箇所の章節番号など）

ファイル添付（該当画面など）

*マークがついている項目は入力必須項目です。

JAIRO Cloud事務局からの返信が不要であれば、投稿テンプレートを守らずにMLを使用することができます。

障害報告が行われている「JPCOAR JAIRO Cloud Community ML」は JAIRO Cloudのユーザーサポートだけでなく、「相互協力」用のMLでもあります。

障害かどうか迷ったら、MLで「コミュニティの皆様」宛てに質問してみましよう！

おわり

参考文献

平成18年度学術ポータル担当者研修
機関リポジトリと著作権 杉田茂樹・堀越邦恵（北海道大学附属図書館）
https://contents.nii.ac.jp/sites/default/files/2020-03/txt9_4.pdf

第4回JPCOAR Webinar「IRDB-カラクリと役割：どこから・どこへ・どのように」
ハーベストの概略とIRDBの基本的な活用
<https://doi.org/10.34477/0002000349>

第4回JPCOAR Webinar「IRDB-カラクリと役割：どこから・どこへ・どのように」
ハーベストエラー解消の手順
<https://doi.org/10.34477/0002000350>

大学図書館員のためのIT総合研修easy編：
システムベンダーとの信頼しあえるコミュニケーションのために
<https://www.nii.ac.jp/event/other/libraryfair/2024/#5>